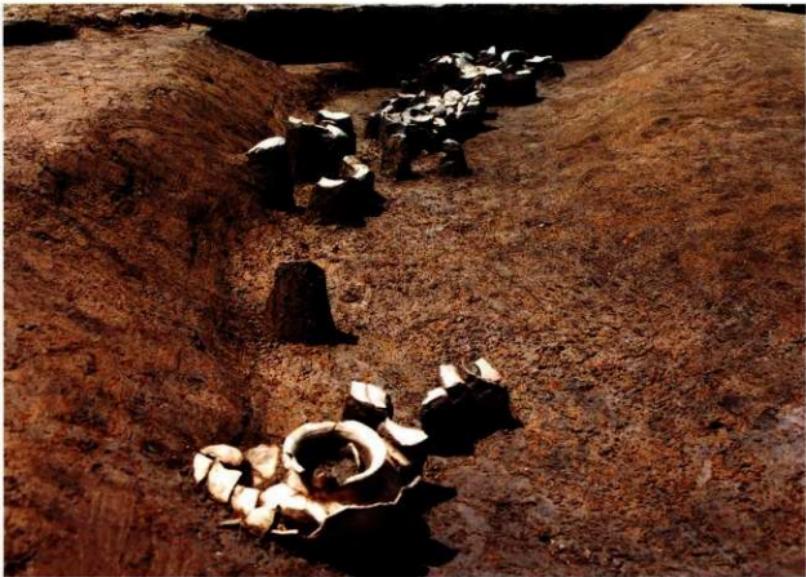


富山県福光町

神成遺跡 I
久戸 II 遺跡 II

2004年3月

福光町教育委員会



神威遺跡 3 地區 SD01 遺物出土狀況



神成遺跡 3 地区の出土遺物



久戸 II 遺跡 2 地区の出土遺物

序

福光町の東部に位置する北山田地区は、山田川と大井川にはさまれた水田地帯であります。近年の発掘調査等で、縄文時代から近世までの様々な遺跡が発見され、多くの歴史的遺産が埋蔵されていることが分かりました。

今回の調査は、県営ほ場整備事業(北山田北部地区)の実施に伴う神成遺跡、久戸Ⅱ遺跡の発掘調査です。遺跡の大半は盛土により保存し、一部の用排水路用地や田面削平部分について本調査を実施することになりました。

今年度の調査の結果、古墳時代の住居跡、流路、平安時代の掘立柱建物、土坑などが見つかり、土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、青磁などの遺物が出土しました。本書は、その調査の成果をまとめたものです。郷土の歴史の解明や学術研究等に活用していただければ幸いです。終わりに、この調査の実施にあたり、富山県埋蔵文化財センター、福光町シルバー人材センター、富山県農林水産部、ほ場整備事業北山田北部地区委員会をはじめ、地元住民の方々に多大な御協力を賜りましたことに、深く感謝を申し上げます。

平成16年3月

福光町教育委員会

教育長 石崎栄一

例　　言

1. 本書は、県営は場整備事業（担い手育成型）北山田北部地区に伴う富山県福光町神成遺跡及び久戸Ⅱ遺跡の発掘調査概要である。
2. 調査は、平成15年5月12日から同年9月22日までである。調査面積は神成遺跡1,599m²、久戸Ⅱ遺跡1,743m²である。調査は、富山県農林水産部の委託を受け、福光町教育委員会が実施した。地元負担金については、福光町教育委員会が国庫補助金・県費補助金を受けた。
3. 調査事務局は福光町教育委員会生涯学習課におき、指導文化係長 石黒久尚、指導文化係主事 片田亞紀が調査業務を担当し、生涯学習課長 加藤信行が総括した。調査の担当及び本書の執筆は、生涯学習課指導文化係主事 片山亞紀、同係嘱託 西村倫子が行った。
4. 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々の協力・助言があった。記して謝意を表する。
井幡潔・太嶋勇・林敏三・増宮正泰・山田政寛（敬称略・五十音順）
5. 本書で使用した方位は真北である。土層の観察には、小出正忠・竹原秀雄編著1967「新版標準上色帖」日本色研事業株式会社を用いた。
6. 調査参加者は次の通りである。
井口金治・井口義雄・水口良男・水口善嗣・溝口木吉・溝口忠雄・溝口日出夫・山田善之
井口鮑子・川島芳江・水口貞子・水口浜子・山田澄乃（現地作業員）
西川和美（遺物整理作業）

目　　次

I 位置と環境	1	第16図 久戸Ⅱ遺跡2地区の遺構(4)	26
第1図 位置と周辺の遺跡	1	第17図 久戸Ⅱ遺跡2地区の遺構(5)	27
II 調査に至る経緯と経過	2	第18図 久戸Ⅱ遺跡2地区の遺構(6)	28
第1表 調査経過	2	第19図 神成遺跡1地区・3地区的遺物(1)	29
第2表 遺跡の概要	2	第20図 神成遺跡3地区的遺物(2)	30
第2図 遺跡範囲と調査区位図	3	第21図 神成遺跡3地区的遺物(3)	31
III 調査の概要	5	第22図 久戸Ⅱ遺跡2地区的遺物(1)	32
1 調査の方法	5	第23図 久戸Ⅱ遺跡2地区的遺物(2)	33
第3図 神成遺跡1地区的調査区割	5	第24図 久戸Ⅱ遺跡2地区的遺物(3)	34
2 神成遺跡1地区的概要	6	第25図 久戸Ⅱ遺跡2地区的遺物(4)	35
3 神成遺跡2地区的概要	6	第26図 久戸Ⅱ遺跡2地区的遺物(5)	36
第4図 神成遺跡2地区・3地区的調査区割	6	図版1 神成遺跡1地区・2地区	
	6	図版2 神成遺跡3地区	
4 神成遺跡3地区的概要	7	図版3 神成遺跡3地区的遺構	
第5図 神成遺跡3地区的基本層序	7	図版4 久戸Ⅱ遺跡2地区	
第6図 久戸Ⅱ遺跡2地区的調査区割	8	図版5 久戸Ⅱ遺跡2地区的遺構(1)	
5 久戸Ⅱ遺跡2地区的概要	9	図版6 久戸Ⅱ遺跡2地区的遺構(2)	
第7図 久戸Ⅱ遺跡2地区的基本層序	9	図版7 久戸Ⅱ遺跡2地区的遺構(3)	
IV まとめ	13	図版8 久戸Ⅱ遺跡2地区的遺構(4)	
参考文献	13	図版9 神成遺跡1地区・3地区的遺物(1)	
図版凡例	14	図版10 神成遺跡3地区的遺物(2)	
第8図 神成遺跡1地区平面図	15	図版11 神成遺跡3地区的遺物(3)	
第9図 神成遺跡2地区・3地区平面図	17	図版12 神成遺跡3地区的遺物(4)	
第10図 久戸Ⅱ遺跡2地区平面図	19	図版13 久戸Ⅱ遺跡2地区的遺物(1)	
第11図 神成遺跡3地区的遺構(1)	21	図版14 久戸Ⅱ遺跡2地区的遺物(2)	
第12図 神成遺跡3地区的遺構(2)	22	図版15 久戸Ⅱ遺跡2地区的遺物(3)	
第13図 久戸Ⅱ遺跡2地区的遺構(1)	23	図版16 久戸Ⅱ遺跡2地区的遺物(4)	
第14図 久戸Ⅱ遺跡2地区的遺構(2)	24	報告書抄録	
第15図 久戸Ⅱ遺跡2地区的遺構(3)	25		

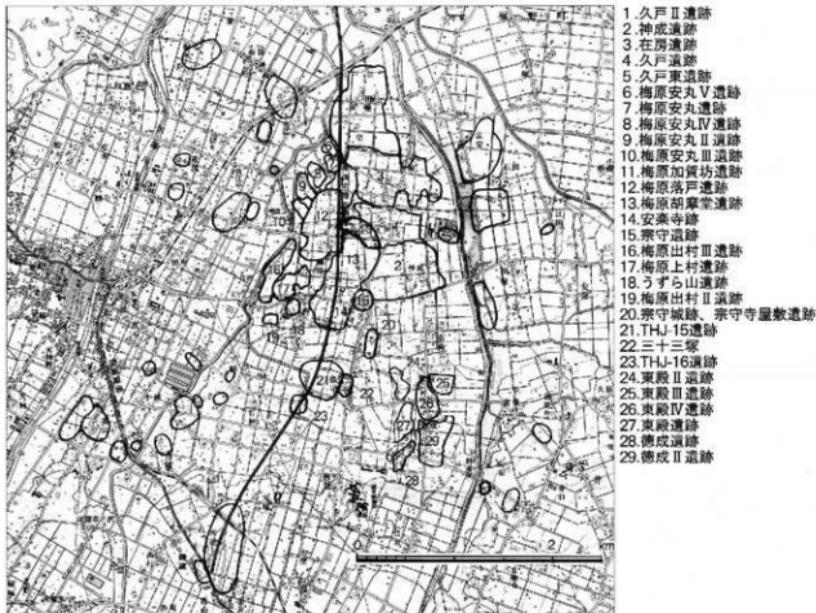
I 位置と環境

富山県福光町は、石川県金沢市との県境をなす富山県の西南部端に位置する。町の西側から南側にかけては、養老三年（719年）、泰澄大師によって開山されたと言われる靈峰医王山をはじめとする山脈が連なる。町の南側に位置する上平村との境にある大門山に源を発する小矢部川が、その支流とともに平野部を形成する。市街地は主に小矢部川沿いに展開し、小矢部川とその支流である山田川にはさまれた段丘には小河川が縦横に走り、それらを利用した田地が広がる。

神成遺跡及び久戸Ⅱ遺跡は、山田川左岸の緩やかな傾斜を持つ洪積台地上の高官田尻面に位置する[金田章裕 1993]。神成遺跡は、神成地内のほぼ全域に広がっている。久戸Ⅱ遺跡は、神成遺跡の北側に隣接する。現況は主に田地・畑地である。山田川を隔て、砺波平野を一望できる微高地に立地し、台地末端から河川域までの比高差は2m前後を測る。

周辺には、在房遺跡、久戸遺跡、宗守遺跡、梅原胡麻堂遺跡などの遺跡が密集しており、近年の調査で、古墳時代、奈良・平安時代の住居跡や中世の建物跡が数多く発見されている。また墨書き器や製塙土器なども出土しており、北山田地区一帯では古くから大規模な集落が営まれていたことがわかる。

文献資料では、福光町の一部が砾波川上郷に含まれていたとされている。平安時代には川上村と呼ばれ官倉が置かれていたことが知られる。その後11世紀には円宗寺領石黒庄が成立し、当地域はそのうちの山田郷の一部に比定される。



第1図 位置と周辺の遺跡 (S=1:50,000)

II 調査に至る経緯と経過

平成10年(1998年)、福光町北山田北部地区において、県営ほ場整備事業(扱い手育成型)が策定された。この事業は農地を扱い手に集積し、経営規模を拡大させることにより低コスト化を目指すものであり、田の大区画化による基盤整備を行うものである。事業計画は在房、久戸、神成、宗守の約100haを対象とし、平成10年度から平成14年度までが工期とされていた。これに先立ち平成8年度に、町教委員会は県埋蔵文化財センターの職員の派遣を受けて、事業計画地内で遺跡分布調査を行ったところ、広範囲において遺物の散布地を確認した。そのため、平成10年度からは国庫補助金を受けて遺跡の範囲確認を行うため試掘調査を実施した。試掘調査の結果、遺跡が広範囲に渡って遺存していることが確認されたため、県農地林務部、県教育委員会、地元上地改良区と遺跡の保護措置について協議を重ねた。その結果、遺跡の大半は盛土を行うことで水田下に保存し、一部の面工事・農道建設・用排水路部分のような遺跡が保有できない場所について本調査を実施することになった。以降、試掘調査を毎年度継続して行い、平成12年度からは並行して本調査を行っている。

平成15年度の調査は神成遺跡1地区の約133m²、神成遺跡2地区650m²、神成遺跡3地区816m²、久戸Ⅱ遺跡2地区の約1,743m²である。神成遺跡1地区は神成遺跡の南部に位置し、仮排水路敷設により削平を受けるため本調査対象となった。神成遺跡2地区と3地区は神成遺跡北東部に、久戸Ⅱ遺跡2地区は久戸Ⅱ遺跡中央部に位置し、田面調整工事により削平を受けるため本調査対象となった。

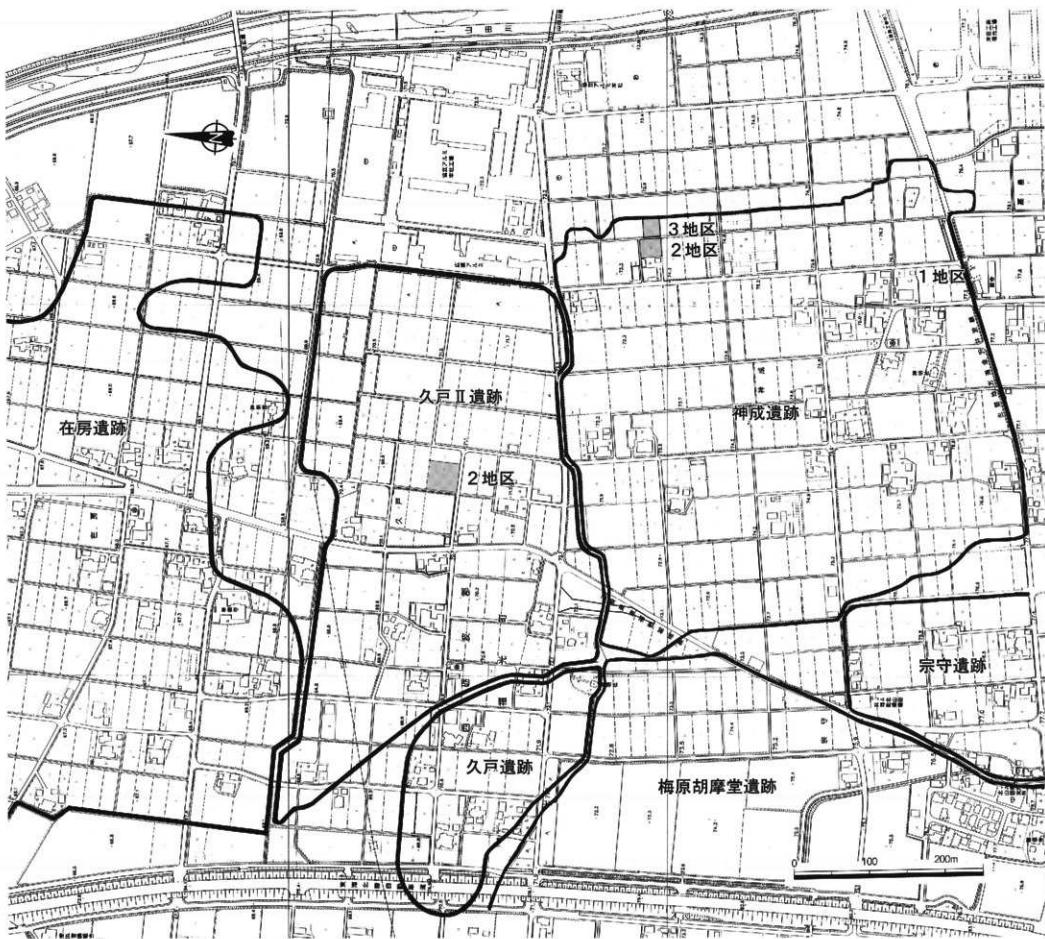
北山田北部地区に所在する遺跡の、これまでの調査面積は次のとおりである。

第1表 調査経過

	遺跡名	試掘調査対象面積	本調査面積
平成10年度	在房遺跡	約 6.0 ha	—
	在房遺跡	約 24.3 ha	—
	久戸Ⅱ遺跡	約 9.3 ha	—
平成12年度	在房遺跡	約 8.0 ha	3,175m ²
	久戸遺跡	約 5.7 ha	—
	久戸Ⅱ遺跡	約 3.8 ha	—
	神成遺跡	約 9.3 ha	—
平成13年度	在房遺跡	—	305m ²
	神成遺跡	約 12.0 ha	—
	在房遺跡	—	640m ²
平成14年度	久戸Ⅱ遺跡	約 0.6 ha	1,040m ²
	宗守遺跡	約 1.7 ha	—
	神成遺跡	約 3.7 ha	—
	梅原胡麻堂遺跡	約 4.2 ha	—
平成15年度	神成遺跡	—	1,599m ²
	久戸Ⅱ遺跡	—	1,743m ²

第2表 遺跡の概要

遺跡名	所属時代	発見された遺構	発見された遺物
在房遺跡	縄文時代後期、古墳時代、古代、中世	竪穴住居、掘立柱建物、土坑、溝、井戸、柱穴	縄文土器、須恵器、土師器、珠洲、青磁、白磁、木製品、紡錘車
久戸遺跡	縄文時代、中世	柱穴、土坑、溝	縄文土器、須恵器、土師器、珠洲、青磁、白磁、肥前系陶磁器
久戸Ⅱ遺跡	縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代、中世	竪穴住居？、掘立柱建物、土坑、溝、柱穴	縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器、硯、中世土器、珠洲、木製品
神成遺跡	縄文時代、古墳時代、古代、中世、江戸	竪穴住居、土坑、溝、柱穴	須恵器、七輪器、中世土器、珠洲、青磁
宗守遺跡	縄文時代中期、中世、近世	柱穴、土坑、溝	縄文土器、石斧、土師器、須恵器、中世土器
梅原胡麻堂遺跡	縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代、中世、江戸	墓跡、掘立柱建物、溝、掘、匂穴、井戸	縄文土器、打製石器、土師器、須恵器、中世土器、珠洲、青磁、白磁、越前、越中瀬戸、瀬戸美濃、石臼



第2図 遺跡範囲と調査区位置図 (S=1:5,000)

III 調査の概要

1. 調査の方法

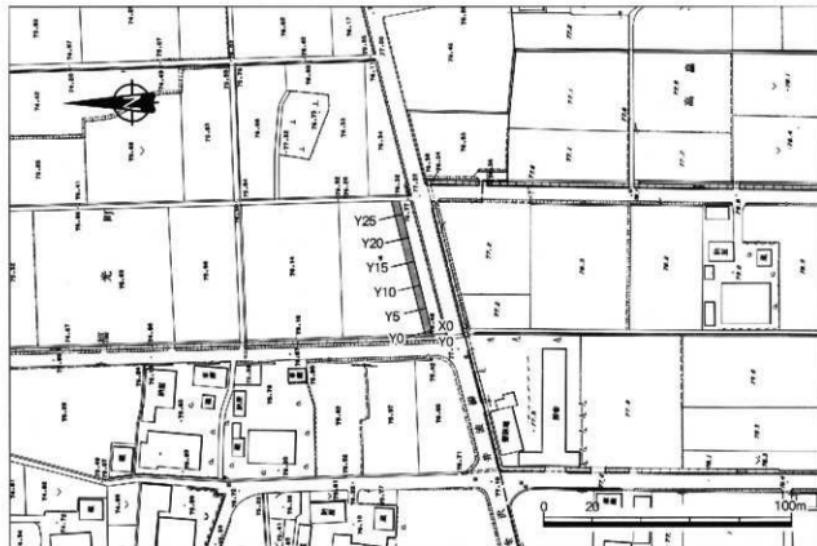
調査区域の設定後、試掘調査の結果に基づき、調査員の立ち会いのもとで表土除去を行った。表土除去には重機を使用し、耕作土および前回は場整備時の盛土の層まで掘削した。耕作土は、盛土と分けて調査区の外に搬出した。

表土除去後に、調査区に合わせたおおよその東西方向、南北方向に基準杭を設置して調査区割りを行った。区割りは、南から北にX軸、西から東にY軸とし、2mを一区画としてアラビア数字で表記した。

調査区に合わせてサブトレンチを設定し、地山面まで掘り下げる層位を観察した。一部にセクションベルトを残して層位を確認しながら、人力による包含層掘削、遺構検出、遺構掘削を行った。遺構の掘削は、埋土の堆積状況を観察するために半載するか、セクションベルトを2本ないし3本残して掘削し、土層の記録作業が終わりしだい完掘した。排土は、人力により調査区外へ搬出した。

遺構は検出後、1:100で概略図を作成して、遺構毎に通し番号をつけた。遺構の検出状況や上層、遺物の出土状況は、調査員と調査補助員が手実測により1:20で図化した。各遺構の検出状況、断面、完掘状況などの記録写真、調査区のブロック写真、全体写真は調査員が撮影した。すべての遺構完掘終了後、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を図化用に行い、あわせて俯瞰・斜め写真等を撮影した。

出土遺物は、現地作業と並行して洗浄・バインダー処理・注記・仕分けの整理作業を行った。接合、復元は現場作業中止時や、現場終了後に行った。遺物実測やトレース等は基準を統一し、調査員と整理員で図版を作成した。写真や図面は年度・遺跡・地区毎にファイルにまとめ、出土遺物は報告書の写真図版のとおりに整理箱に収めた。またそれ以外の遺物は地区の遺構毎、グリット毎にならべて整理箱に収めた。



第3図 神成遺跡1地区の調査区割 (S=1:2,000)

2. 神成遺跡 1 地区の概要

(1) 地形と基本層序

神成遺跡は、山田川左岸の段丘上に位置している。1地区の海拔は76.0m～76.3mを測る。地形は南西から北東にかけて緩やかに傾斜している。地表から地山面までの深さは約50～80cmである。

上層は地山（黄褐色粘質土）、遺物包含層（黒褐色粘質土）、前回は場整備時の盛土（茶褐色粘質土）、現在の耕作土の順に堆積している。調査区全体的に削平が激しく、遺物包含層の遺存状況は良くない。

(2) 遺構の概要（図版1）

1地区では、遺構は検出しなかった。

(3) 遺物の概要

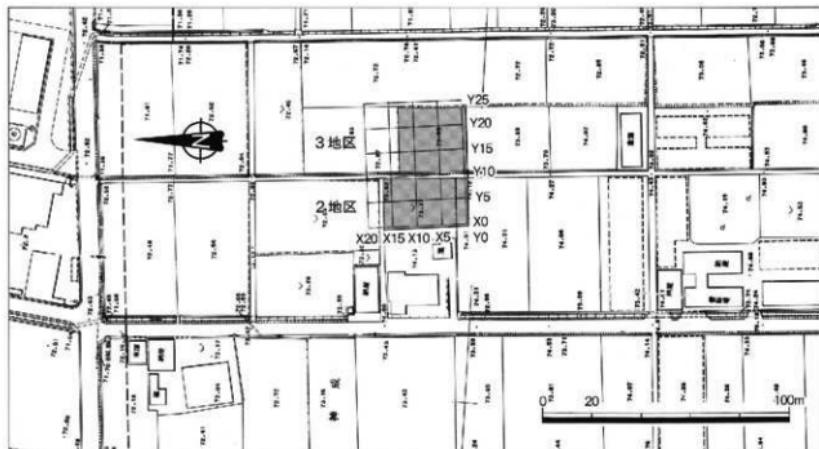
出土遺物には、須恵器、土師器、中世土師器、珠洲がある。

包含層（第19図、図版9）

1、2は須恵器・高台つきの杯である。3は土師器・椀である。4、5は土師器・柱状高台の椀である。底部に糸切り痕が見られる。6は手づくね整形の中世土師器・皿である。7は珠洲・壺の体部破片である。

3. 神成遺跡 2地区の概要（図版1）

神成遺跡2地区は、遺跡の東端に位置する。試掘調査の結果から、調査区の一部は近代の用排水路跡にあたると予想されていたが、実際に表土はぎを行ったところ、調査区の全域が用排水路跡によって、遺物包含層、遺構ともに削平を受けていることが分かった。さらに数箇所つぼ掘りを行って、約1.4m下の地山の確認をしたが、隣接する3地区の地山高とも比較して、用排水路跡の下には遺構は遺存していないと判断した。そのため、2地区的調査はグリッド測量と基本層序の確認、調査区内の人力による精査を行い、空中写真による図化は行わなかった。



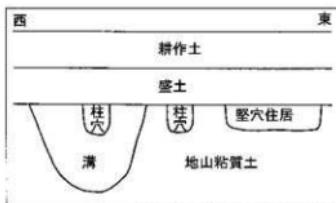
第4図 神成遺跡2地区・3地区の調査区割 (S=1:2,000)

4. 神成遺跡3地区の概要

(1) 地形と基本層序 (第5図)

神成遺跡は、山田川左岸の段丘上に位置している。3地区的海拔は73.0m～73.4mを測る。調査区の東側、北側の隣接する田との比高差は約50cmであり、3地区よりも一段低い東側は遺跡外となっている。地形は南西から北東にかけて緩やかに傾斜している。地表から地山面までの深さは約15～20cmである。

土層は地山(黄褐色粘質土)、遺物包含層(黒褐色粘質土)、前回は場整備時の盛土(茶褐色粘質土)、現在の耕作上の順に堆積している。調査区全体的に削平が激しく、遺物包含層はほとんど遺存していない。



第5図 神成遺跡3地区の基本層序

(2) 遺構の概要

竪穴住居1、溝1、柱穴を検出した。

S D01 (第11図、図版3)

調査区の北東寄り、X 9～11、Y 22～24付近に位置し、住居の東側一部は調査区外に延びている。南北4.1m、東西推定3.9mの隅丸方形の住居である。住居の壁面に沿って溝がある。溝の幅は約20cmであり、床面から約5cm掘り込んでいる。壁はゆるやかに立ちあがる。住居内の南東端に直径約40cmの十坑を検出し、この中からほぼ完形に復元できる土師器・壺が出士した。住居はかなり削平を受けており、深さは地山面から約15cmである。埋土は炭化物が混じった黒色粘質土を中心とし、固くしまっている。貼床らしきものは検出できなかった。この住居からはほぼ完形に復元できる土師器・壺や壺、小壺が数多く出土している。

S D01 (第12図、図版3)

調査区の南西端、X 0～5、Y 11～16付近を南から北西へ流れる。X 3、Y 14付近で約90度屈曲する。幅約6m、検出面からの深さ約1.2mである。埋土は黒褐色土と地山砂質土が互層をなしており、下層では黒色砂質土に礫が混じり、かなりの保水性がある。地山はグライ化している。遺物は土師器・壺や壺、鉢、器台などがまとめて出土している。出土遺物の時期は古墳時代前期のものであり、この溝が流れていたのもこの時代と思われる。古代の遺構と考えられる柱穴が溝の上から掘り込まれており、そのころには溝は埋設していたと考えられる。

その他の柱穴

柱穴は調査区の北側、X 10～14、Y 13～20付近と、S D01上にあたるX 0～5、Y 11～16付近に集中している。

掘立柱建物と考えられるような柱穴列は検出できなかった。柱穴はおおむねが直径約30cm、深さ20cmである。埋土は黒褐色粘質土を中心である。

(3) 遺物の概要

出土遺物には、古墳時代の土師器がある。

S I 01 (第19～20図、図版9～10)

8は土師器・壺である。口径は約18cmである。9、10は鉢形の小型土器である。9は有段口縁を持つ。10は直線的にのびる口縁部を持つ。11は土師器・有段口縁を持つ壺である。体部外面の底部と内面にヘラケズリとハケ調整を施している。12は土師器・壺である。口縁部は破損していたが、瓶状の長い口縁部をもつものと考えられる。外面は丁寧にみがき、赤彩を施している。内面はハケ調整を施している。13は土師器・壺の口縁部である。口径は12cmである。14は土師器・壺の口縁部である。15、16は土師器・壺である。15は外面全体にハケ調整を施す。肩部の上方には孔がある。16は摩滅が激しく、内外面ともに調整は観察できなかった。17、18は壺か壺の底部である。わずかにハケ調整が観察できる。

S D 01 (第21図、図版11～12)

19はほぼ完形に復元できる土師器・壺である。外面全体にハケ調整を、内面の底部付近はハケ調整、体部はヘラ削り調整を施している。20は土師器・器台の底部である。21は鉢形の小型土器である。丸い体部に内湾気味に開く口縁部を持つ。22は土師器・鉢?の底部である。23は土師器・蓋形の土器である。24は土師器・椀である。外面にハケ調整を施す。25はほぼ完形に復元できる土師器・鉢である。26は鉢形の小型土器である。27は土師器・壺である。28は土師器・有段口縁を持つ壺である。29～31は土師器・壺である。32は壺か壺の底部である。外面にハケ調整、内面にヘラ削りを施す。



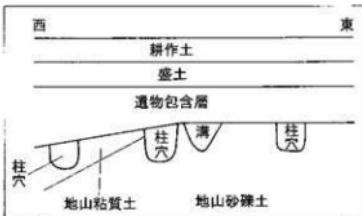
第6図 久戸Ⅱ遺跡2地区の調査区割 (S=1:2,000)

5. 久戸Ⅱ遺跡2地区の概要

(1) 地形と基本層序 (第7図)

久戸Ⅱ遺跡は山田川左岸の上位段丘上に広がっている。今回調査を行った2地区は遺跡のほぼ中央部に位置しており、試掘調査でも多くの遺構、遺物を検出した箇所である。海拔は、69.15m～70.15mを測る。調査区の東側は遺物包含層・地山粘質土は削平を受けており、地山砂礫土が隆起していたが、西側に向かって地山は傾斜し、グライ化した地山粘質土の上に遺物包含層が厚く堆積している。

土層は地山（黄褐色粘質土）、遺物包含層、（黒褐色粘質土）、近代の堆積層（茶褐色粘質土粗砂まじり）、現在の耕作土の順に堆積している。



第7図 久戸Ⅱ遺跡2地区の基本層序

(2) 遺構の概要

S B01 (第13図、図版5)

調査区の東寄り、X 4～6、Y 16～20付近に位置する。南北3間、東西2間の側柱建物であり、床面積は約28m²である。主軸は真北より9° 西へふれる。柱間は西側列が2.0～2.1m、南側列が2.1m～2.2mである。柱穴はおおむねが直径80cm～1mであり、深さは約40cmである。埋土は黒色あるいは黒褐色粘質土で、地山砂質土と礫がまじる。建物のP 2から土師器・椀、皿、P 4から須恵器・杯、P 10から須恵器・甕、土師器・甕と土錐が出土している。

S B02 (第13図、図版5)

調査区の東寄り、X 4～6、Y 16～20付近に位置する。南北3間、東西2間の側柱建物であり、床面積は約29m²である。主軸は真北より11° 西へふれる。S B01と重複しており、ほぼ同位置での建て替えが行われたと思われる。S B01と切り合う柱穴はないため、新旧は不明である。柱間は西側列が2.1～2.2m、南側列が2.1mである。柱穴はおおむねが直径80cm～1mであり、深さは約30cmである。埋土は黒色あるいは黒褐色粘質土で、地山砂質土と礫がまじる。建物のP 8から土師器・赤彩碗、須恵器・甕が出土している。

S B03 (第14図、図版5)

調査区の南端、X 0～1、Y 14～16付近に位置する。南北2間以上、東西2間の側柱建物であり、床面積は14m²以上である。主軸は真北より15° 西にふれる。建物の南側は調査区外に延びているため、詳細な規模は不明である。柱間は、西側列が2.5m、北側列が1.8～2.0mと、南北方向がやや広めの建物である。柱穴は直径60～70cm、深さは10～20cm、埋土は黒色粘質土あるいは黒褐色粘質土に地山砂質土が混じる。この建物からの出土遺物はない。

S B04 (第14図、図版6)

調査区の南寄り、X 1～3、Y 11～14付近に位置する。南北3間、東西3間の総柱建物であり、床面積は23m²である。主軸は真北より4° 西にふれる。柱間は西側列が1.6～1.8m、北側列が1.7～1.8mである。建物の外側の柱穴が直径60cm前後、内側の柱穴が40cm前後である。深さは10～20cm、埋土は黒色やや粘質土に地山砂質土と礫が混じる。建物のP 6から土師器・甕が出土している。

S B05 (第15図、図版6)

調査区の南寄り、X 5～7、Y 11～13付近に位置する。南北2間、東西2間の総柱建物であり、床面積は14m²である。主軸は真北より2°西にふれる。柱間は西側列がおおよそ等間隔の2.0m、北側列が等間隔の1.9mである。柱穴は直径40cm前後のものと、80cm前後のものがある。深さは30～40cm、埋土は黒色粘質土に地山砂質土が混じる。建物のP 4から須恵器・高台つきの杯が出土している。杯の底部に墨書きがある。底部の大部分が破損しており、文字内容ははっきり判別できない。

S B06 (第15図、図版6)

調査区の東寄り、X 10～12、Y 19～21付近に位置する。南北2間、東西3間以上の側柱建物であり、床面積は14m²である。主軸は真北より2°西にふれる。建物の東側は調査区外に延びているため建物の詳細な規模は不明である。柱間は西側列が2.5～2.7m、北側列がおおよそ等間隔の2.4mである。柱穴は直径60cm前後、深さは30～35cm、埋土は黒色粘質土に地山砂質土が混じる。建物のP 5から土師器・椀が出土している。

S B07 (第16図、図版6)

調査区の中央、X 9～11、Y 11～13付近に位置する。南北2間、東西2間の総柱建物であり、床面積は15m²である。主軸は真北より1°西にふれる。柱間は西側列が等間隔の1.7m、北側列が2.2mである。柱穴は直径50～60cm、深さは20～30cm、埋土は黒褐色粘質土に地山砂質土と礫が混じる。この建物からの出土遺物はない。

S B08 (第17図、図版7)

調査区の西寄り、X 6～8、Y 2～5付近に位置する。南北2間、東西2間の総柱建物であり、床面積は19m²である。主軸は真北より5°東へふれる。柱間は東側列が等間隔の2.5m、南側列が2.3～2.4mである。柱穴は直径60cm前後、深さは25～35cm、埋土は黒色粘質土に地山砂質土が混じる。建物のP 3から土師器・椀が出土している。

S B11 (第16図、図版7)

調査区の中央南寄り、X 3～6、Y 6～10付近に位置する。南北3間、東西2間の側柱建物であり、床面積は43m²である。主軸は真北より1°東へふれる。柱間は東側列が2.3～2.6m、南側列が2.4～2.7mである。柱穴は直径60～70cm、深さは40～50cm、埋土は黒褐色粘質土に地山砂質土と炭が若干混じる。建物のP 1、P 2から須恵器・杯が、P 3から土師器・壺の口縁部が、P 4から土師器の内面黒色処理を施した椀が、P 8から須恵器・壺と土師器・壺の口縁部が出土している。

S B12 (第17図、図版7)

調査区の中央付近、X 7～10、Y 6～9に位置する。南北3間、東西2間の側柱建物であり、床面積は37m²である。主軸は真北より3°東へふれる。柱間は西側列が等間隔の2.2m、北側列が2.6～2.8mである。柱穴は直径50～70cm、深さは30～40cm、埋土は黒色粘質土に地山砂質土が混じる。建物のP 3から須恵器・杯が、P 10から土師器・壺の口縁部が出土している。

S K01 (第18図、図版8)

調査区の南寄り、S B12内のX 3、Y 9付近に位置する。南北方向に1.5m、東西方向に1mの隅丸方形の土坑である。検出面からの深さは15mを測り、断面は皿型で緩やかに立ち上がる。埋土は黒色粘質土で、炭が混じる。出土遺物には須恵器・杯がある。

S K02 (第18図、図版8)

調査区の南寄り、S B12内のX 3、Y 8付近に位置する。直系1.8mの円形の土坑である。検出面からの深さは50mを測り、断面は急にたち上がる。埋土は炭が混じった黒色粘土質土を中心にな層に分層できる。須恵器・壺の体部破片と土師器・椀が出土している。

S K03 (第18図、図版8)

調査区のやや西寄り、X 5、Y 5付近に位置する。南北方向に1.3m、東西方向に1mの隅丸方形の土坑である。検出面からの深さは15mを測る。埋土は黒褐色粘土質土であり、須恵器・杯と短頸壺の蓋と壺の体部破片が出土している。

S D03 (第18図、図版8)

調査区の中央付近、X 3～14、Y 6～9に位置する。幅約60cm、深さ20cmの溝である。S B11、S B12との切り合いは、断面観察でははっきり確認できなかったが、須恵器・杯、壺、土師器・椀などが出土しており、これらの遺物からみて、建物のほうが古いと考えられる。

S D05 (図版8)

調査区の中央西寄り、X 10～11、Y 3～6付近に位置する。幅約50cm、深さ5～10cmの溝である。埋土は褐色砂質土である。かなり浅いため、部分的な検出しかできなかった。

(3) 遺物の概要

S B01 (第22図、図版13)

33は須恵器・杯である。P 4出土である。34、35はP 2出土であり、土師器・椀と皿である。37、38は土錐である。39は土師器・壺の口縁部である。40は須恵器・壺か壺である。P 10出土である。

S B02 (第22図、図版13)

36は土師器・椀である。外面に赤彩を施す。41は須恵器・壺の口縁部である。どちらもP 8出土である。

S B04 (第22図、図版13)

42は土師器・壺の口縁部である。胎土は非常に粗い。P 6出土である。

S B05 (第22図、図版13)

45は須恵器・高台つきの杯である。破損しててはっきりとは解説できないが、底部外面に墨苔がある。建物のP 4からの出土である。

S B06 (第22図、図版13)

46、47は土師器・椀である。P 5出土である。47の底部には糸切り痕が見られる。

S B08 (第22図、図版13)

43は土師器・椀の底部破片である。P 3出土である。

S B09 (第22図、図版13)

44は須恵器・杯の口縁部である。P 5出土である。

S B11 (第22図、図版13)

48、49は須恵器・杯である。48はP 1、49はP 2出土である。50は須恵器・高台つきの杯である。P 1出土である。51は須恵器・蓋、52、53は土師器・壺の口縁部である。51、53はP 8、52はP 3出土である。54は内面を黒色処理した土師器・椀である。P 4出土である。内面には丁寧にミガキを施す。

S B12 (第22図、図版13)

55は須恵器・杯である。P 3出土である。56は土師器・壺の口縁部破片である。P 10出土である。

S K01 (第23図、図版13)

57は須恵器・杯である。

S K02 (第23図、図版13)

58は土師器・鍋である。口径は28cmを測る。59は須恵器・壺の体部破片である。外面に叩き目、内面に当て具痕が見られる。

S K03 (第23図、図版13)

60は須恵器・杯、61は須恵器・短頸壺の蓋である。62は須恵器・壺の体部破片である。外面に叩き目、内面に当て具痕が見られる。

S D03 (第23図、図版13)

63～65は須恵器・杯である。63の底部外面に「*」のヘラ記号がある。66、67は須恵器・蓋である。67の内面には「×」のヘラ記号がある。68は土師器・高杯の高台部分である。内面に黒色処理、外面に赤彩を施す。69は土師器・碗である。

柱穴 (第24図、図版14)

70はP 3からの出上り、土師器・碗である。71はP 15からの出土で、土師器・壺の口縁部である。72～74、77はP 33からの出上り、土師器・碗である。72の体部外面には、横位置で「吉」らしき墨書きがある。75、76は土師器・皿である。78～82は須恵器・蓋である。順にP 39、P 54、P 55、P 118、P 178からの出土である。83～87は須恵器・高台つきの杯である。順にP 54、P 136、P 178、P 183、P 236からの出土である。87はほぼ完形に復元できる。88～92は須恵器・杯である。順にP 153、P 188、P 230、P 249、P 293からの出土である。88は完形で出土した。92はややひずみがある。93はP 86からの出土で、土師器・碗の底部である。94はP 223からの出土で、土師器・碗である。95はP 178からの出土で、土師器・壺である。96はP 236からの山上で、土師器・小壺である。磨耗が激しい。97は土師器・壺の底部である。磨耗が激しく、調整の観察はできなかった。

包含層 (第25～26図、図版14～16)

98～108は須恵器・杯である。104は焼成が悪い。108は完形で出土した。109～119は須恵器・蓋である。114、115のようにつまみが扁平なもの、115～119のような宝珠形のつまみの2種類ある。120、121は須恵器・短頸壺の蓋である。121はゆがみが大きい。122～124は須恵器・高台つきの杯である。125は須恵器・碗である。126は須恵器・皿である。127は須恵器・壺の体部破片である。外面に叩き目、内面に当て具痕が見られる。128は須恵器・壺の頭部破片である。129、130は土師器・碗である。内面に黒色処理を施し、丁寧に磨いている。131、132は土師器・碗である。内外面に赤彩を施す。133は土錐である。P 33出土のものと比較してやや大きい。134～137は土師器・碗である。138は土師器・高台つきの皿である。139は青磁・碗である。140は土師器・鍋の口縁部である。141は土師器・小壺である。内面にハケ調整を施す。142は土師器・小壺である。外面はヘラ削り、内面はハケ調整を施す。143、144は土師器・鍋である。144は内外面ともにハケ調整を施す。

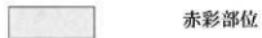
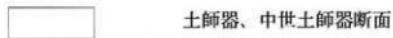
IV まとめ

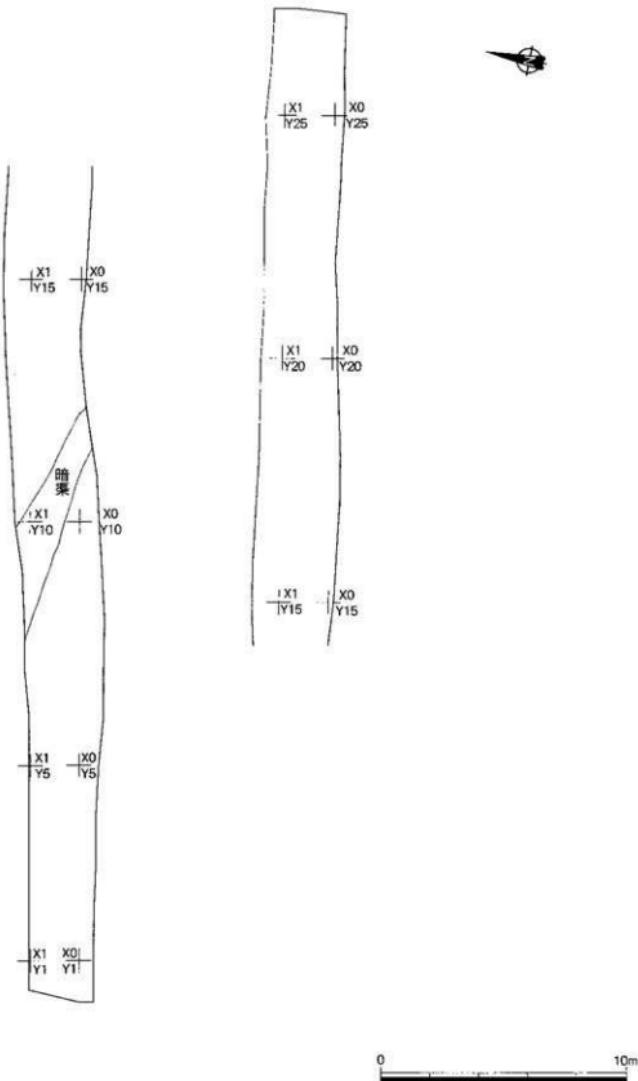
1. 神成遺跡1地区は、遺物包含層がわずかに遺存しており、遺物も数点出土したが、遺構は検出できなかった。この地区は神成遺跡の端にあたり、遺構の密度はかなり薄いと考えられる。
2. 神成遺跡2地区は、全面的に近代の用排水路跡により削平を受け、遺物包含層、遺構ともに遺存していないかった。
3. 神成遺跡3地区からは、古墳時代の竪穴住居と河跡と柱穴を検出した。出土遺物からみて、住居と河には大きな時期差はなく、古墳時代前期頃のものと考えられる。またその他の柱穴は古墳時代前期よりは、新ないと考えられるが、出土遺物もなく、建物を構成するような柱穴列も検出できなかつたため詳しい時期は特定できない。
4. 久戸Ⅱ遺跡3地区からは、古代の掘立柱建物を10棟検出した。建物の軸が少しずつ異なっており、時期差があると考えられる。また須恵器、土師器、墨書き器等多くの遺物が出土しており、建物、遺物の密集度からみても、久戸Ⅱ遺跡の集落の中心部はこの付近にあったと考えられる。

参考文献

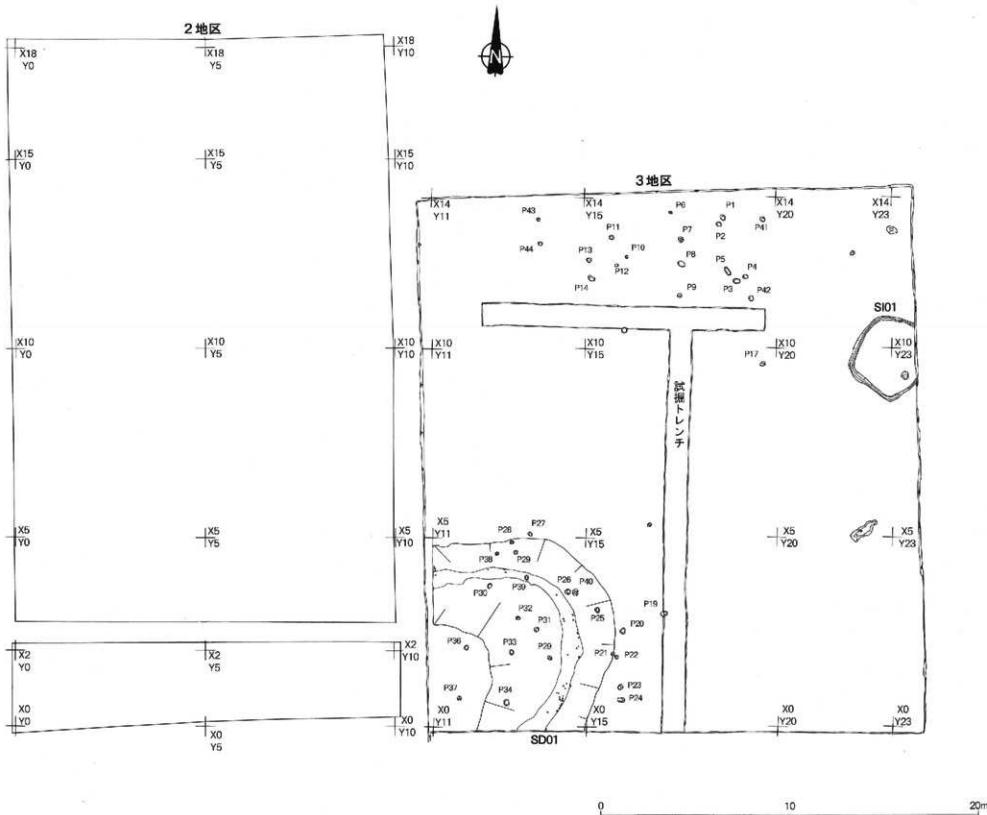
- 石川県埋蔵文化財センター 1986『漆町遺跡Ⅰ』
石川県埋蔵文化財センター 1989『漆町遺跡Ⅲ』
大島町教育委員会2000『八尾C遺跡』
金田章裕1993『医王山麓の平野における中世の景観』『医王は語る』
久々忠義2003『富山県考古学会創立50周年記シンポジウム富山平野の出現期古墳 基調報告
古墳出現期の土器について』『大境 第23号』富山考古学会
財団法人富山県文化財振興財団埋蔵文化財調査事務所1998『五社遺跡発掘調査報告—能越自動車建設
に伴う埋蔵文化財発掘報告』
福光町教育委員会1999『梅原胡摩堂遺跡Ⅲ 梅原出村遺跡群Ⅲ』
福光町教育委員会2001『在房遺跡Ⅰ』
福光町教育委員会2002『在房遺跡Ⅱ』
福光町教育委員会2003『在房遺跡Ⅲ、久戸Ⅱ遺跡Ⅰ』
婦中町教育委員会2000『県営担い手育成基盤整備事業に係る埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告書』
—婦中南部地区・千里地区—
舟橋村教育委員会2000『浦田遺跡発掘調査報告(3)』
北陸古代土器研究会1993『北陸古代土器研究第3号』
北陸古代土器研究会1994『北陸古代土器研究第4号』
北陸古代土器研究会1995『北陸古代土器研究第5号』
北陸古代土器研究会1997『北陸古代土器研究第6号』
北陸古代土器研究会1997『北陸古代土器研究第7号』
細辻真澄2003『任海宮田遺跡出土の土鍾について2』『紀要 富山考古学研究 第6号』
財団法人 富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所
吉岡康暢1991『日本海城の土器・陶磁 [古代編]』六興出版

図版凡例

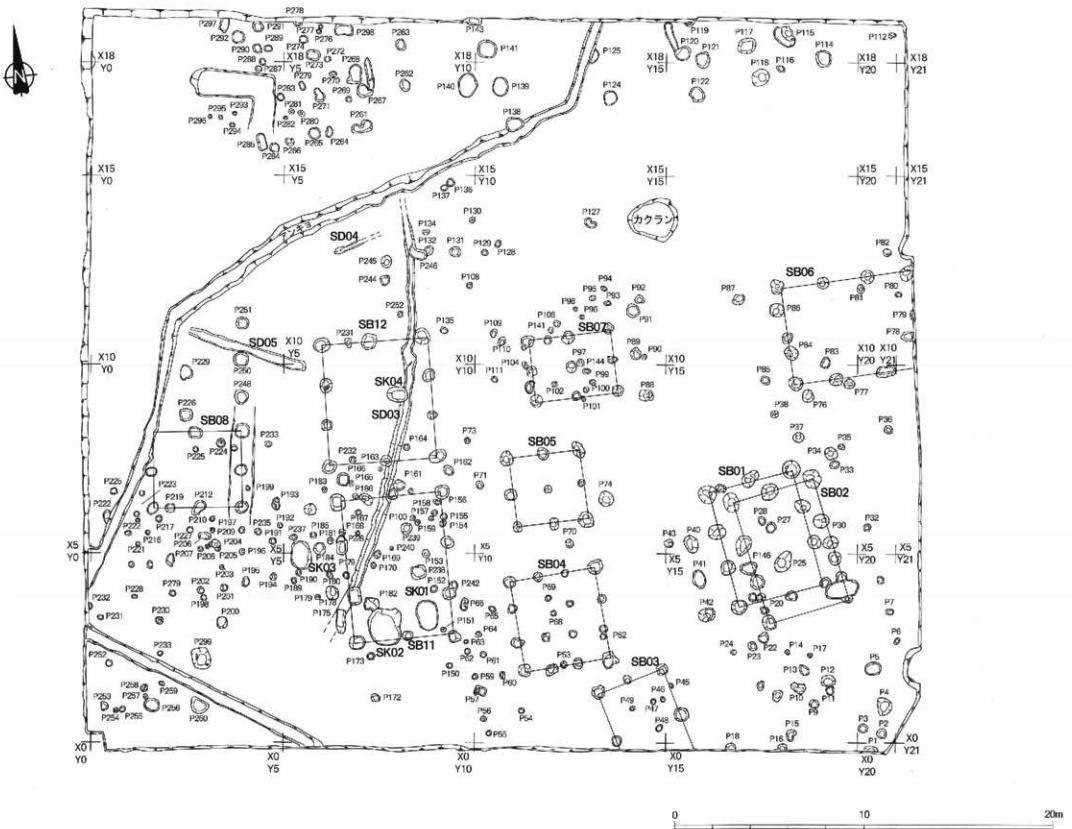




第8図 神成遺跡1地区平面図 (S=1:200)

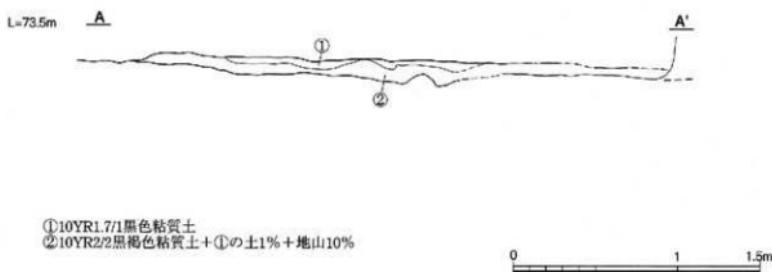
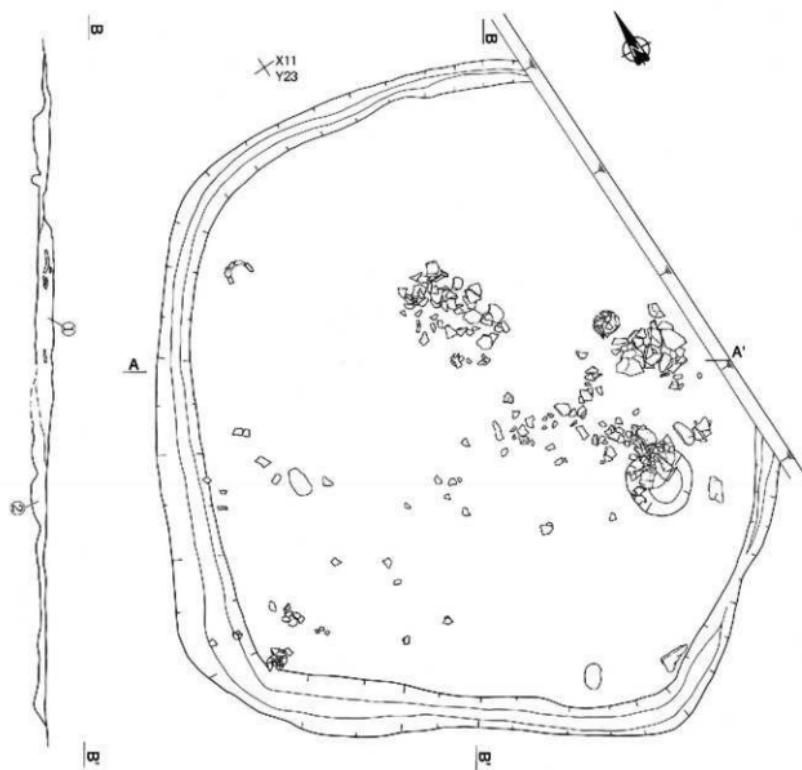


第9図 神成遺跡2地区・3地区平面図 (S=1:200)



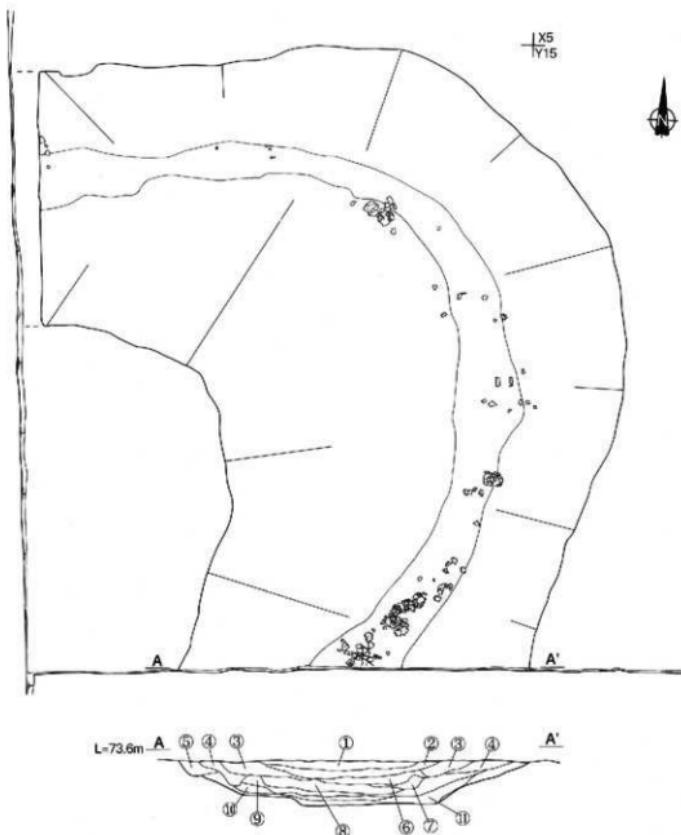
第10図 久戸Ⅱ遺跡2地区平面図 (S=1:200)

SI01



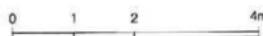
第11図 神成遺跡3地区の遺構(1) (S=1:30)

SD01

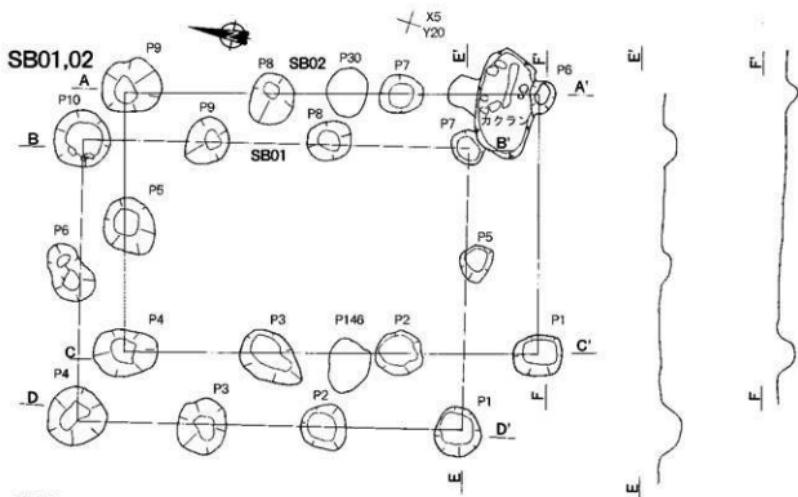


SD01

- ① 10YR1.7/1黒色粘質土
- ② 10YR2/2黒褐色粘質土
- ③ 10YR2/2黒褐色粘質土+地山粘質土60%
- ④ 10YR3/2黒褐色粘質土+地山粘質土5%
- ⑤ 10YR2/3黒褐色粘質土
- ⑥ 10YR2/1黒色粘質土+10YR3/3暗褐色砂質土30%
- ⑦ 10YR3/3暗褐色粘質土 雜砂まじる
- ⑧ 10YR3/3暗褐色砂質土 1 ~ 10cm大の礫まじる
- ⑨ 10YR2/3黒褐色粘質土 煉砂、炭まじる
- ⑩ 5Y2/1黒色粘質土 炭まじる
- ⑪ 2.5Y4/3オリーブ褐色 煉砂まじる



第12図 神成遺跡3地区の遺構(2) (S=1:80)



SB01

SB01

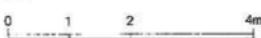
- P10 ①10YR2/2黒褐色やや粘質土:
1cm人の縫、岩まじる
②10YR2/1やや黑色粘質土:
1～10cmの大の縫まじる
③地山
- P9 ①10YR2/1黒色やや粘質土:
+地山砂質土20% 1～5cmの大の
縫まじる
②10YR2/1黒褐色やや粘質土:
1cm人の縫、岩まじる
③10YR2/2黒褐色やや粘質土:
5cmの大の縫まじる
- P8 ①10YR2/2黒褐色やや粘質土:
1～5cmの大の縫、灰まじる
②10YR2/1黒褐色やや粘質土:
1～3cm人の縫、灰まじる
③10YR2/1黒褐色粘質土:
1～3cm人の縫、灰まじる
- P7 ①10YR2/1黒褐色粘質土:
1～5cmの大の縫まじる
②地山
- P4 ①10YR1/7/1黒色粘質土:
1～5cmの大の縫まじる
②10YR2/1黒褐色やや粘質土:
+地山砂質土10% 1～5cmの大の
縫まじる
- P3 ①10YR1/7/1黒色粘質土:
1～5cmの大の縫まじる
②10YR2/1黒褐色やや粘質土:
+地山砂質土5% 1～5cmの大の
縫まじる
- P2 ①10YR2/2黒褐色粘質土:
0.5～3cmの大の縫まじる
②10YR2/2黒褐色やや粘質土:
5～10cmの大の縫まじる
③10YR2/1黒褐色やや粘質土:
1～5cmの大の縫まじる
- P1 ①10YR2/1黒褐色粘質土:
1～3cm人の縫まじる
②10YR2/2黒褐色やや粘質土:
1～3cm人の縫まじる
③10YR2/2黒褐色やや粘質土:
+地山砂質土30% 0.5～3cm大
の縫まじる

SB02

- P9 ①10YR2/2黒褐色やや粘質土:
0.5～3cmの大の縫、灰まじる
②10YR2/1黒褐色やや粘質土:
0.5～1cmの大の縫まじる
③10YR2/1黒褐色やや粘質土:
+地山砂質土40% 1～5cm人の
縫まじる
- P8 ①10YR2/2黒褐色やや粘質土:
1cm人の縫まじる
②10YR2/1黒褐色やや粘質土:
+地山砂質土40% 1～5cmの大の
縫まじる
③10YR2/1黒褐色やや粘質土:
+地山砂質土33% 1～5cmの大
の縫まじる
- P7 ①10YR2/2黒褐色やや粘質土:
+10YR2/2/30%地山砂質土10%
0.5～1cm人の縫まじる
②10YR2/2黒褐色やや粘質土:
+10YR2/3/30%地山砂質土13%
0.5～1cm人の縫まじる

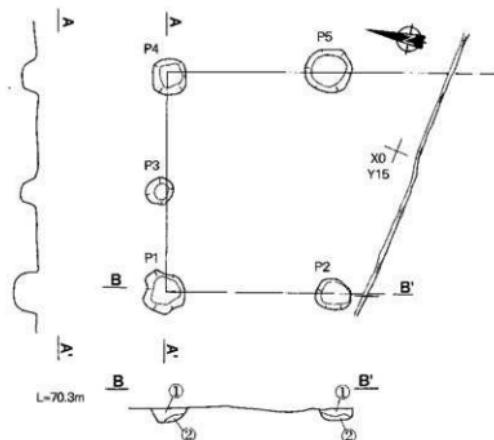
- P6 ①10YR2/1黒褐色やや粘質土:
1～5cmの大の縫まじる
②10YR2/1黒褐色やや粘質土:
0.5～3cmの大の縫まじる
- P4 ①10YR2/1黒褐色やや粘質土:
0.5～3cmの大の縫まじる
②10YR2/1黒褐色やや粘質土:
1～5cmの大の縫まじる
③10YR1/7/1黒色粘質土:
1～7cm人の縫まじる
- P3 ①10YR2/1黒褐色粘質土:
2～5cmの大の縫まじる
②10YR2/1黒褐色粘質土:
+地山砂質土 2～5cm人の縫
まじる
③地山
- P2 ①10YR2/1黒褐色やや粘質土:
1～5cmの大の縫まじる
②10YR2/1黒褐色粘質土:
+地山砂質土40% 1～5cm人の
縫まじる

L=70.4m



第13図 久戸Ⅱ遺跡2地区の遺構(1) (S=1:80)

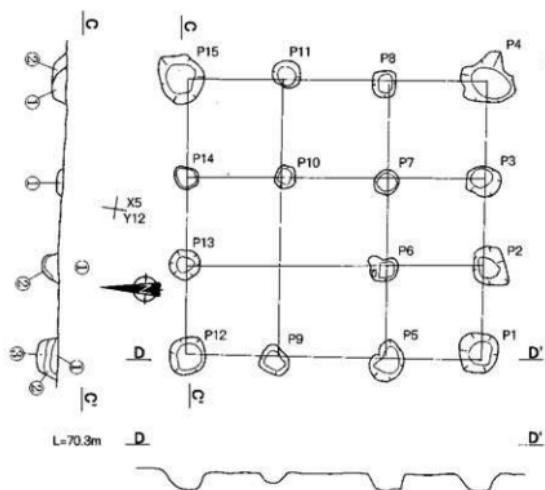
SB03



SB03

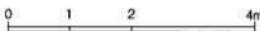
- P1 ①10YR1.7/1黒色粘質土
2~5cm大の礫まじる
②10YR1.7/1黒色粘質土+地山
砂質土 5~10cm大の礫まじる
- P2 ①10YR2/2黒褐色粘質土
0.5cm大の礫まじる
②10YR2/2黒褐色粘質土+地
山砂質土 0.5~1cm大の礫まじ
る

SB04

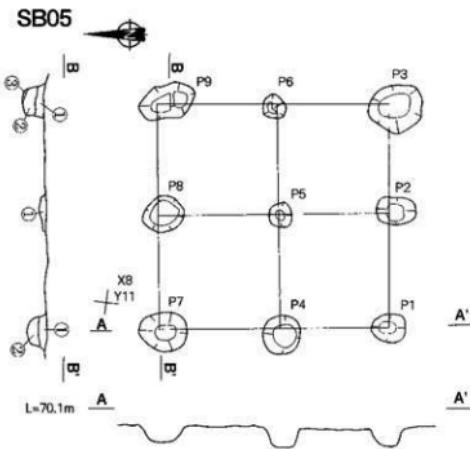


SB04

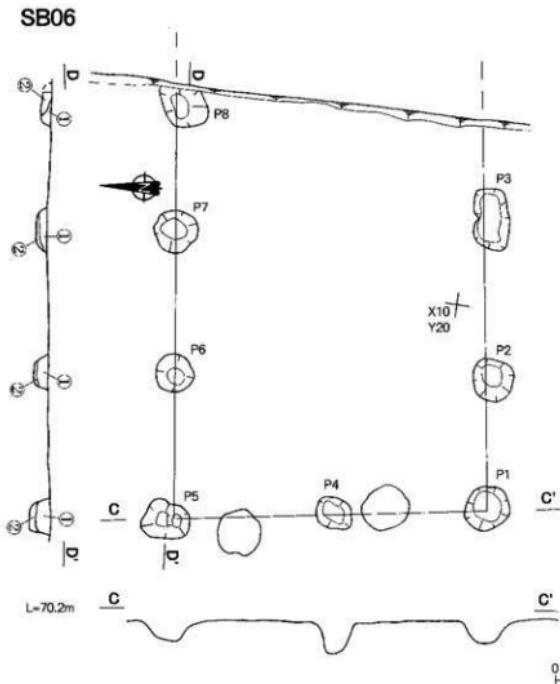
- P12 ①10YR1.7/1黒色粘質土
鉄分まじる
②10YR1.7/1黒色やや粘質土
1~5cm大の礫まじる
③10YR1.7/1黒色やや粘質土+
地山砂質土 0.2~0.5cm大の
礫まじる
- P13 ①10YR1.7/1黒色粘質土
②10YR1.7/1黒色やや粘質土
2~5cm大の礫まじる
- P14 ①10YR1.7/1黒色やや粘質土
1~2cm大の礫まじる
- P15 ①10YR1.7/1黒色やや粘質土
1~2cm大の礫まじる
②10YR1.7/1黒色やや粘質土
2~5cm大の礫まじる



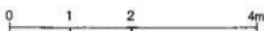
第14図 久戸Ⅱ遺跡2地区の遺構(2) (S=1:80)



- SB05**
- P7 ①10YR2/1黒色粘質土
1~3cm大の礫、炭はじる
②10YR1.7/1黒色粘質土
1~5cm大の礫はじる
- P8 ①10YR2/1黒色やや粘質土
0.5~1cm大の礫
- P9 ①10YR2/2黒褐色やや粘質土
1cm大の礫はじる
②10YR3/4暗褐色粘質土
1~5cm大の礫はじる
③10YR2/1黒色やや粘質土
軽砂、0.5~1cm大の礫多くまじる

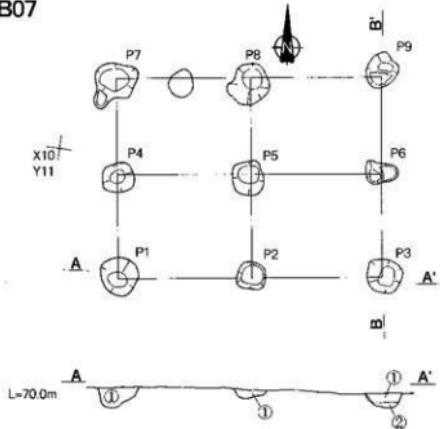


- SB06**
- P5 ①10YR1.7/1黒色やや粘質土
1~5cm大の礫はじる
②10YR3/3暗褐色砂質土
0.5~1cm大の礫はじる
- P6 ①10YR1.7/1黒色やや粘質土
0.5~1cm大の礫はじる
②10YR3/3暗褐色砂質土
1~5cm大の礫はじる
- P7 ①10YR1.7/1黒色やや粘質土
1~5cm大の礫はじる
②地山砂質土+10YR1.7/1黒色
砂質土 1~5cm大の礫はじる
- P8 ①10YR1.7/1黒色やや粘質土
1~5cm大の礫はじる
②10YR1.7/1黒色やや粘質土+
地山粘質土2% 0.5~5cm大の
礫はじる



第15図 久戸Ⅱ遺跡2地区の造構(3) (S=1:80)

SB07



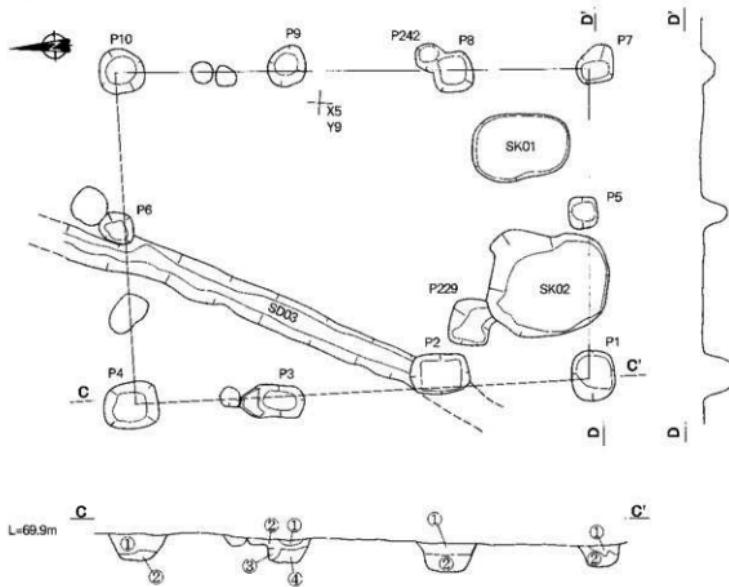
SB07

- P1 ①10YR2/1黒色粘質土
粗砂、1~4cm入の礫まじる
礫まじる
- P2 ①10YR2/1白色粘質土
粗砂、1cmの礫まじる
- P3 ①10YR2/1白色粘質土
粗砂、1cmの礫まじる
②地山粘質土
10YR2/1白色粘質土:10%

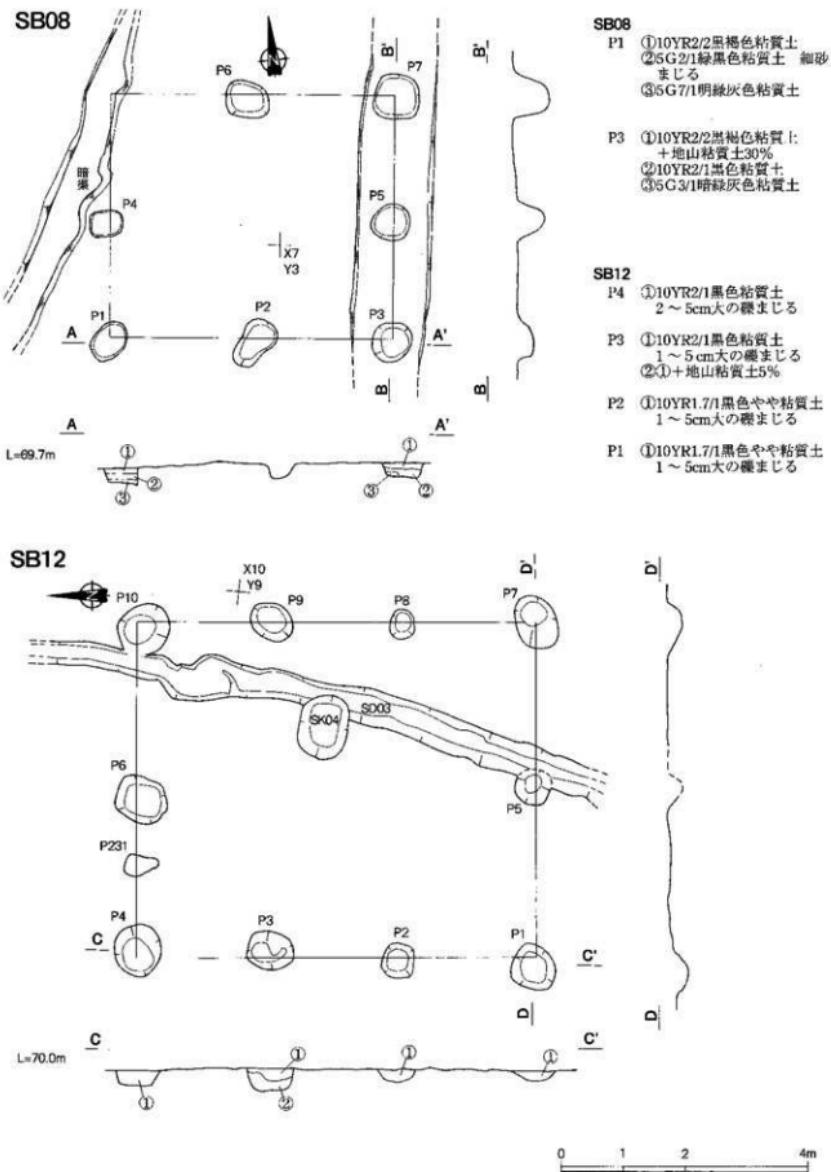
SB11

- P4 ①10YR2/1黒色粘質土+
地山粘質土10% 1~3cm大
の礫まじる
②10YR2/2黒褐色粘質土
1~5cm大の礫まじる
- P3 ①10YR1/7/1黒色粘質土
炭まじる
②10YR2/2黒褐色粘質土+地山
粘質土20%
③10YR2/2黒褐色粘質土+地山
粘質土50%
④10YR2/2黒褐色粘質土+地山
粘質土70%
- P2 ①10YR2/1黒色粘質土炭まじる
②10YR2/1白色粘質土+地山
粘質土20%
- P1 ①10YR2/1黒色粘質土+地山
粘質土20%
②10YR1/7/1黒色粘質土+地山
粘質土5%

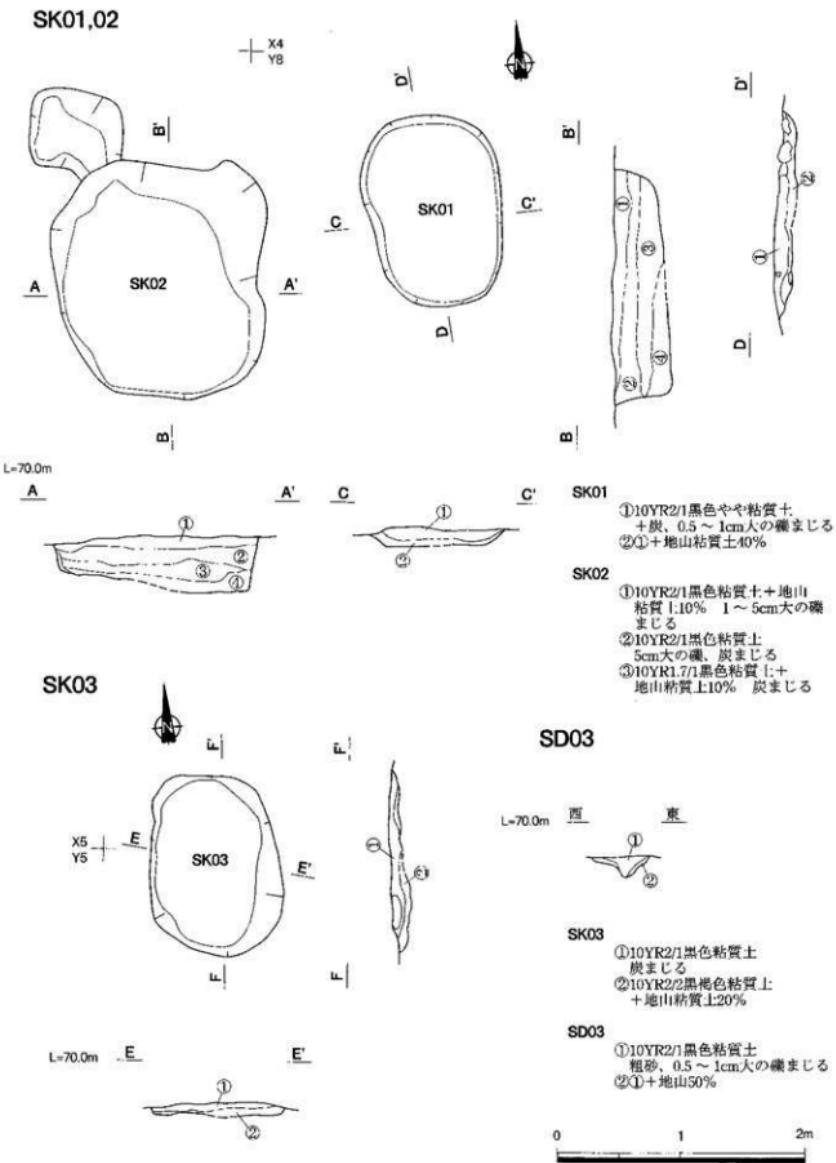
SB11



第16図 久戸Ⅱ遺跡2地区の遺構(4) (S=1:80)



第17図 久戸Ⅱ遺跡2地区の遺構(5) (S=1:80)



第18図 久戸Ⅱ遺跡2地区の遺構(6) (S=1:40)

神成遺跡 1 地区

包含層



1



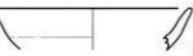
2



4



6



3



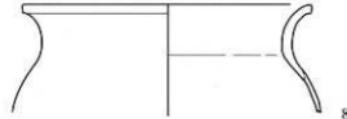
5



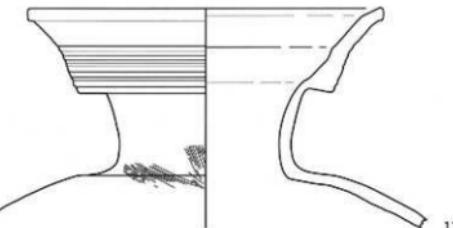
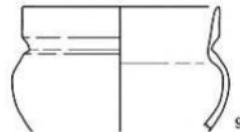
7

神成遺跡 3 地区

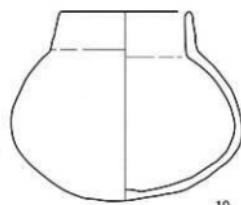
SI01



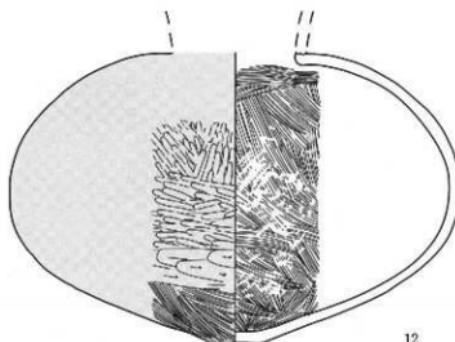
8



11



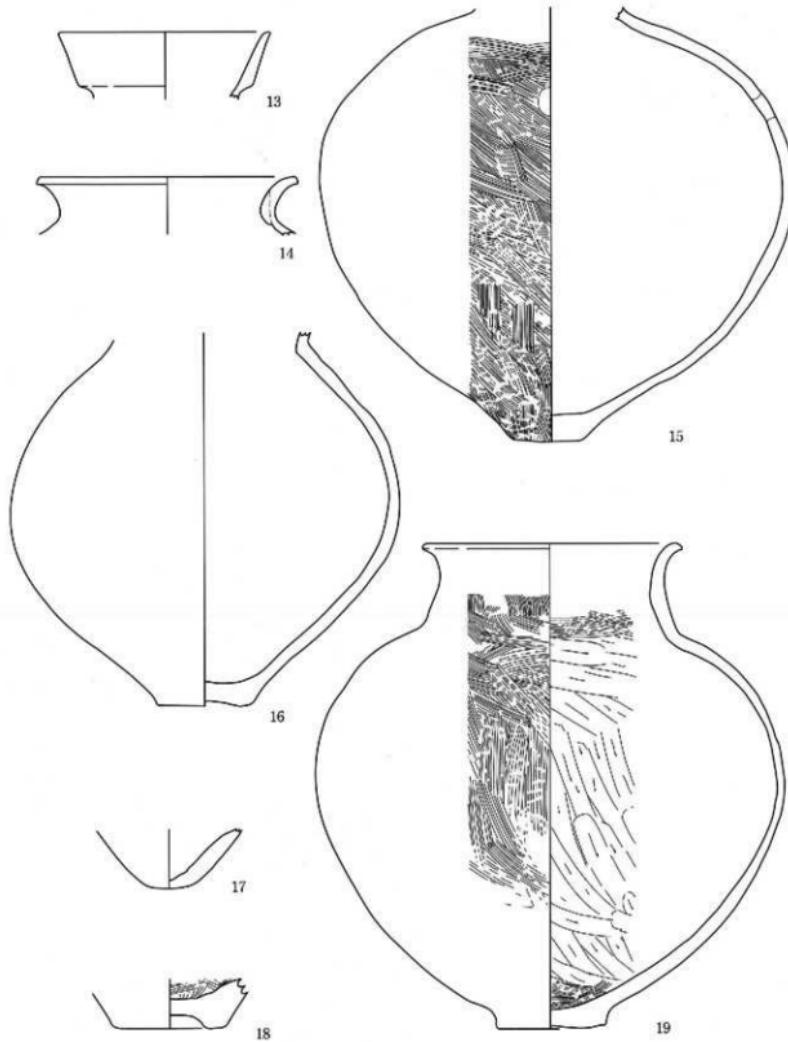
10



12

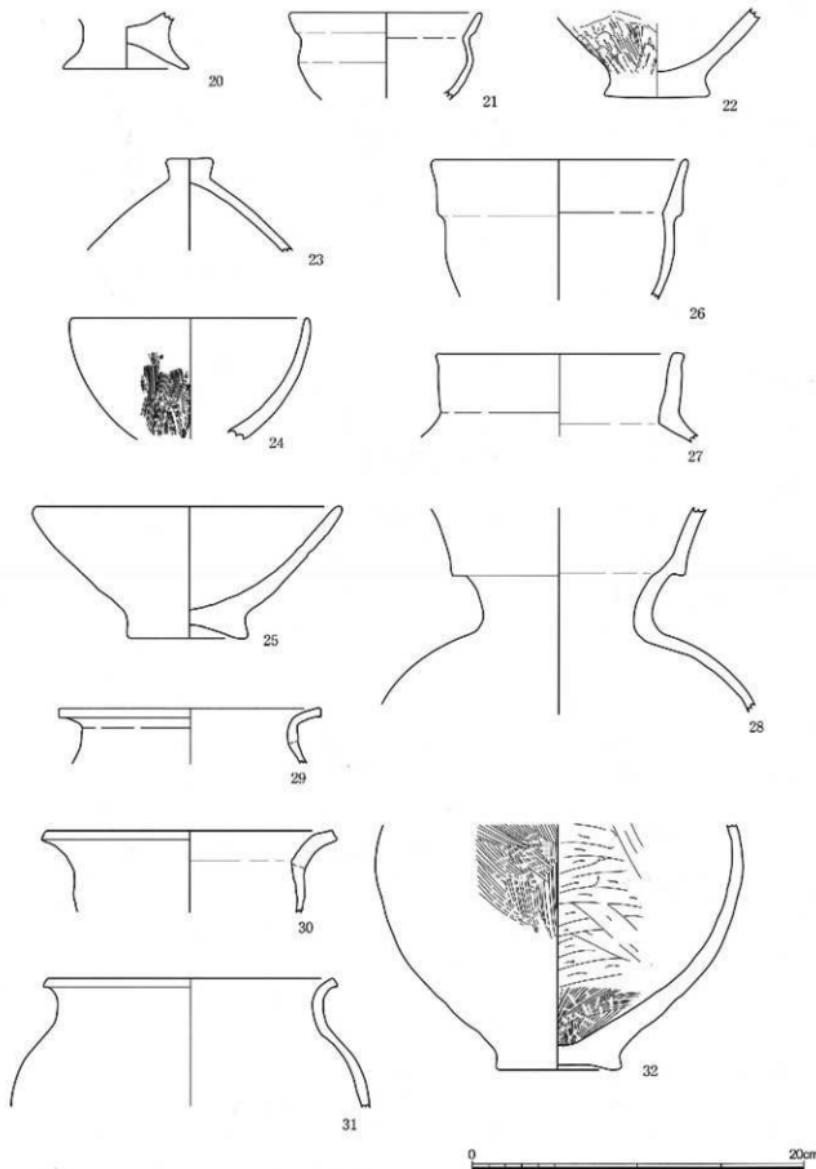
0 20cm

第19図 神成遺跡 1 地区(1~7)・3 地区の遺物(1)(8~12) (S=1:3)



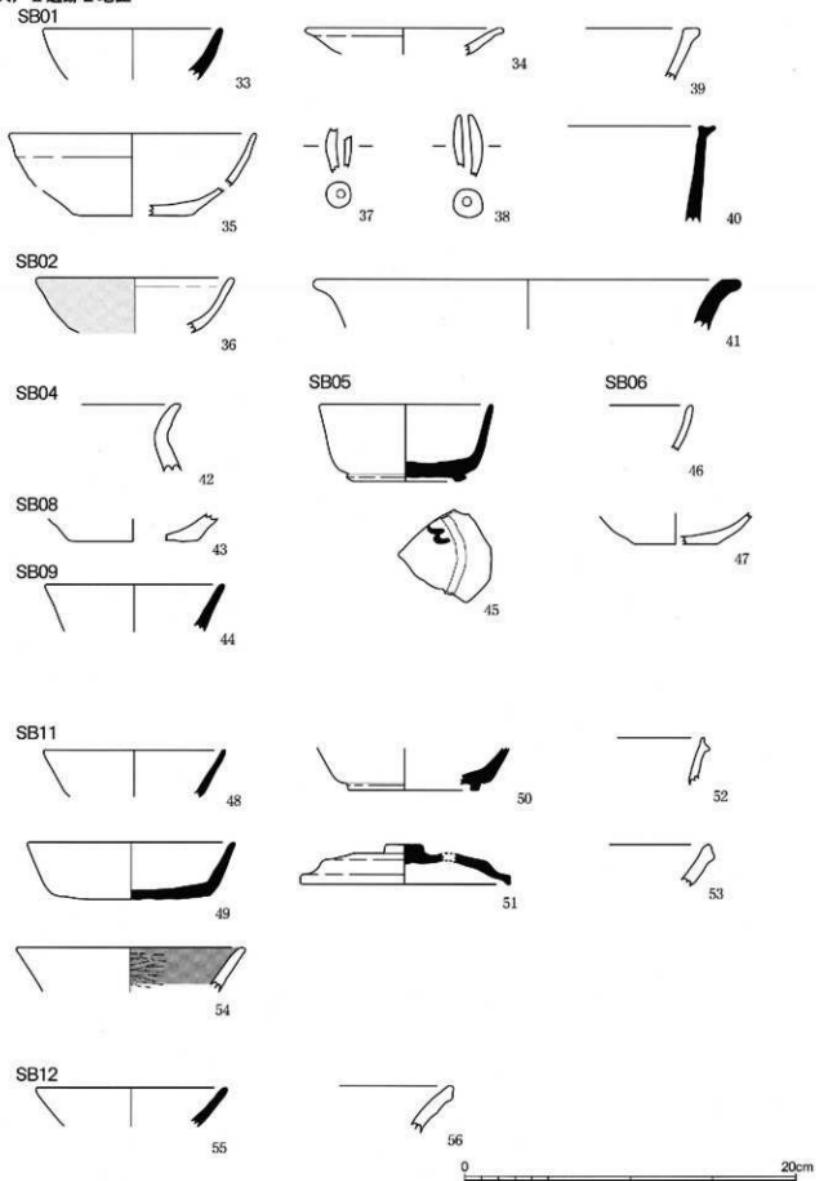
0 20cm

第20図 神成遺跡3地区の遺物(2) ($S=1:3$)

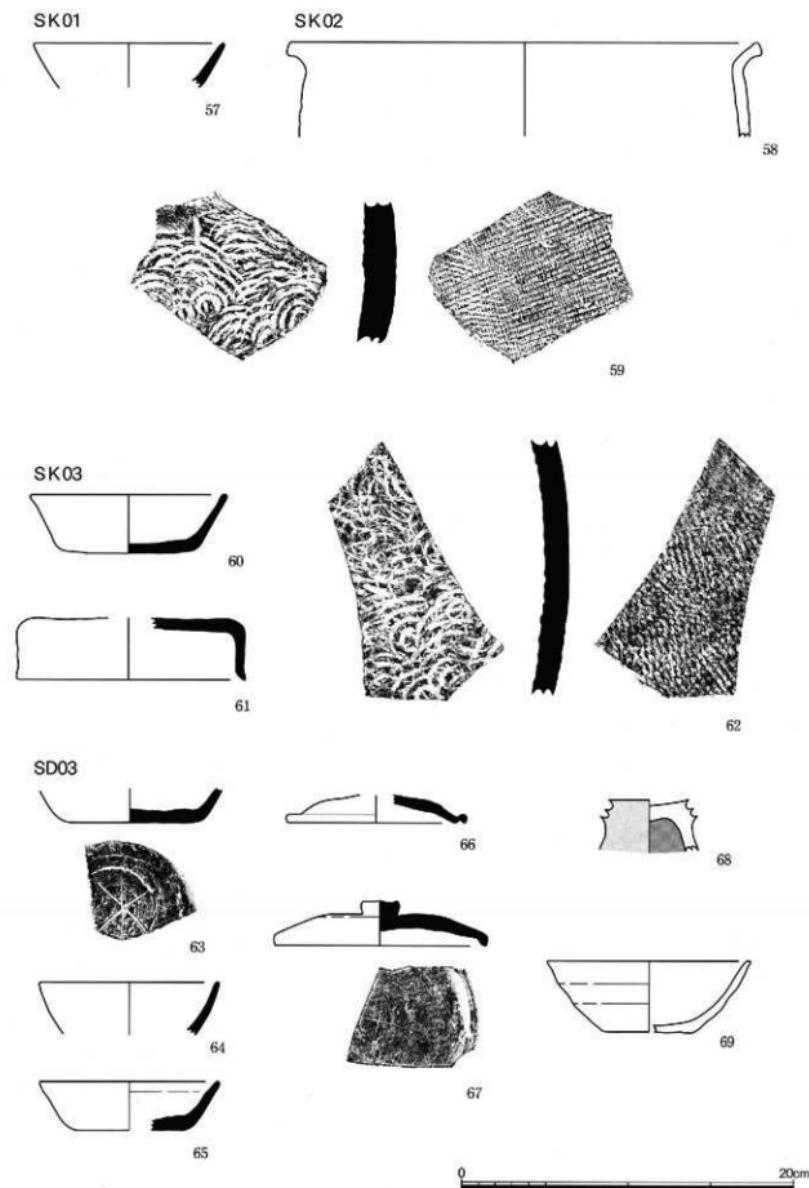


第21図 神成遺跡3地区の遺物(3) (S=1:3)

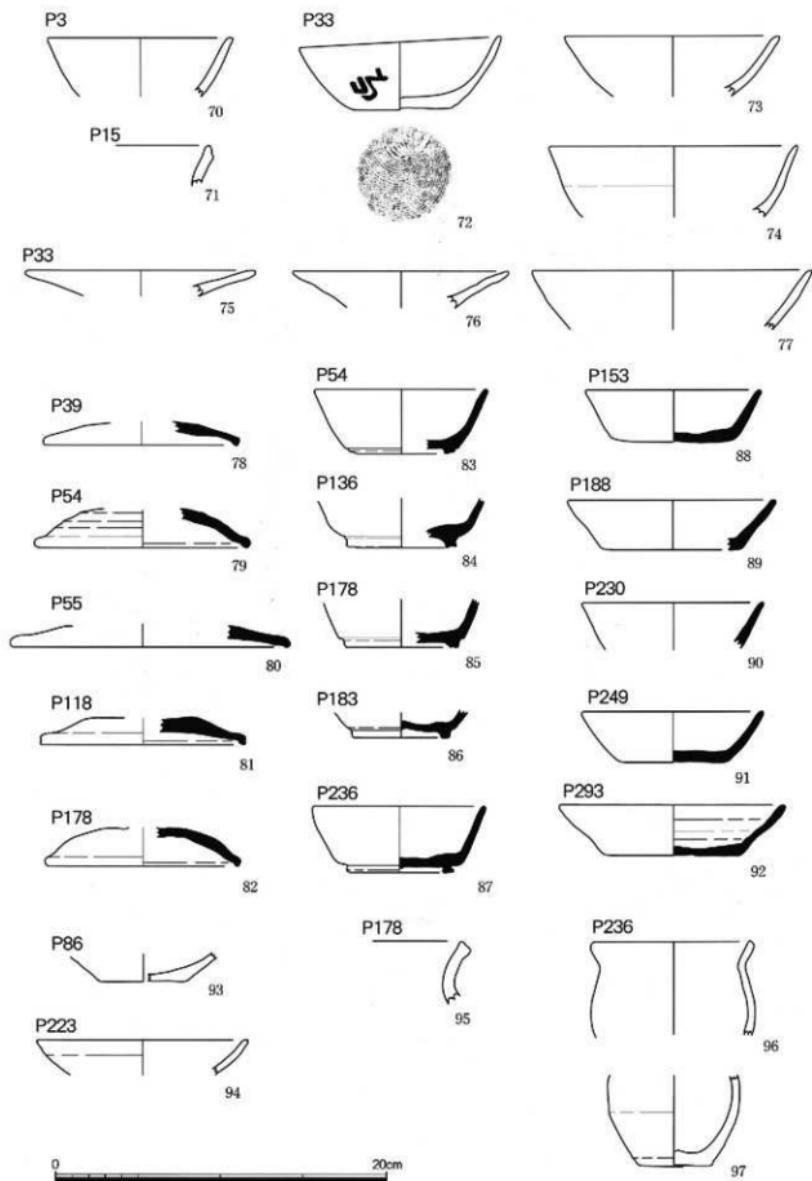
久戸 II 遺跡 2 地区



第22図 久戸 II 遺跡 2 地区の遺物(1) (S=1:3)

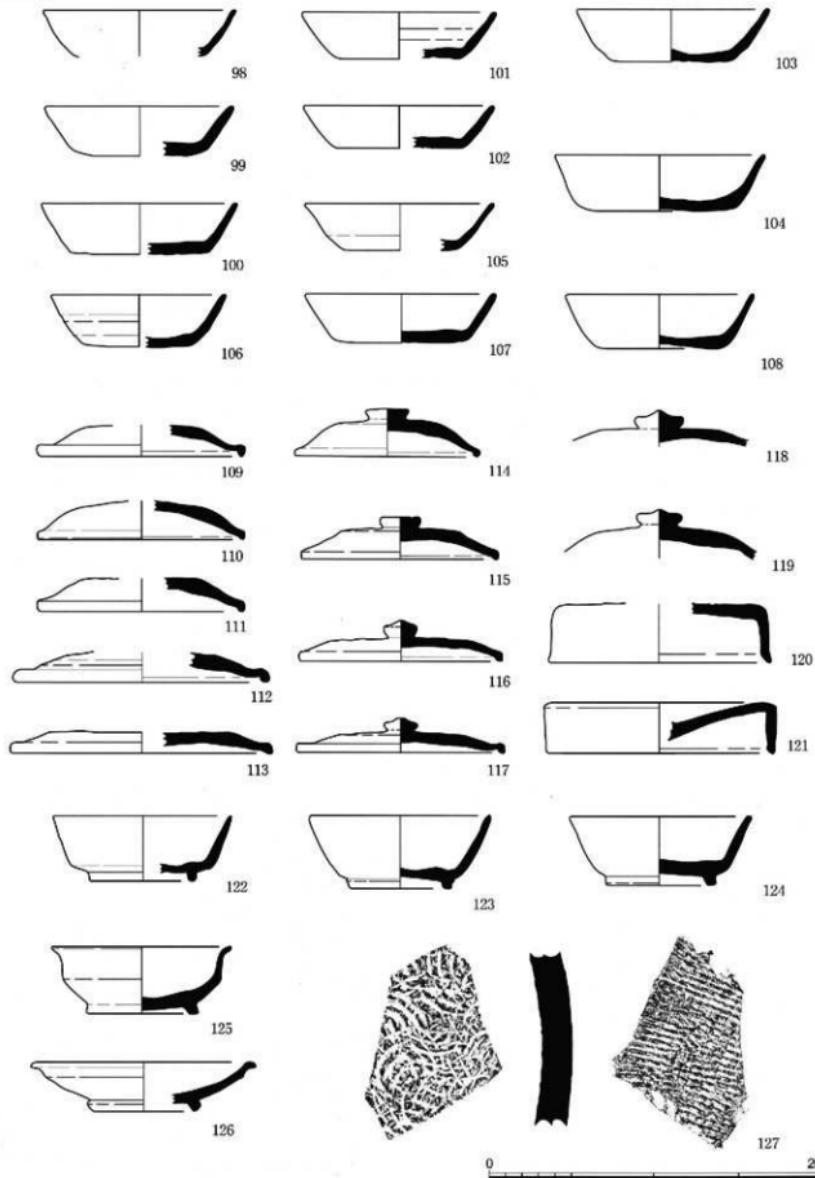


第23図 久戸Ⅱ遺跡2地区の遺物(2) (S=1:3)



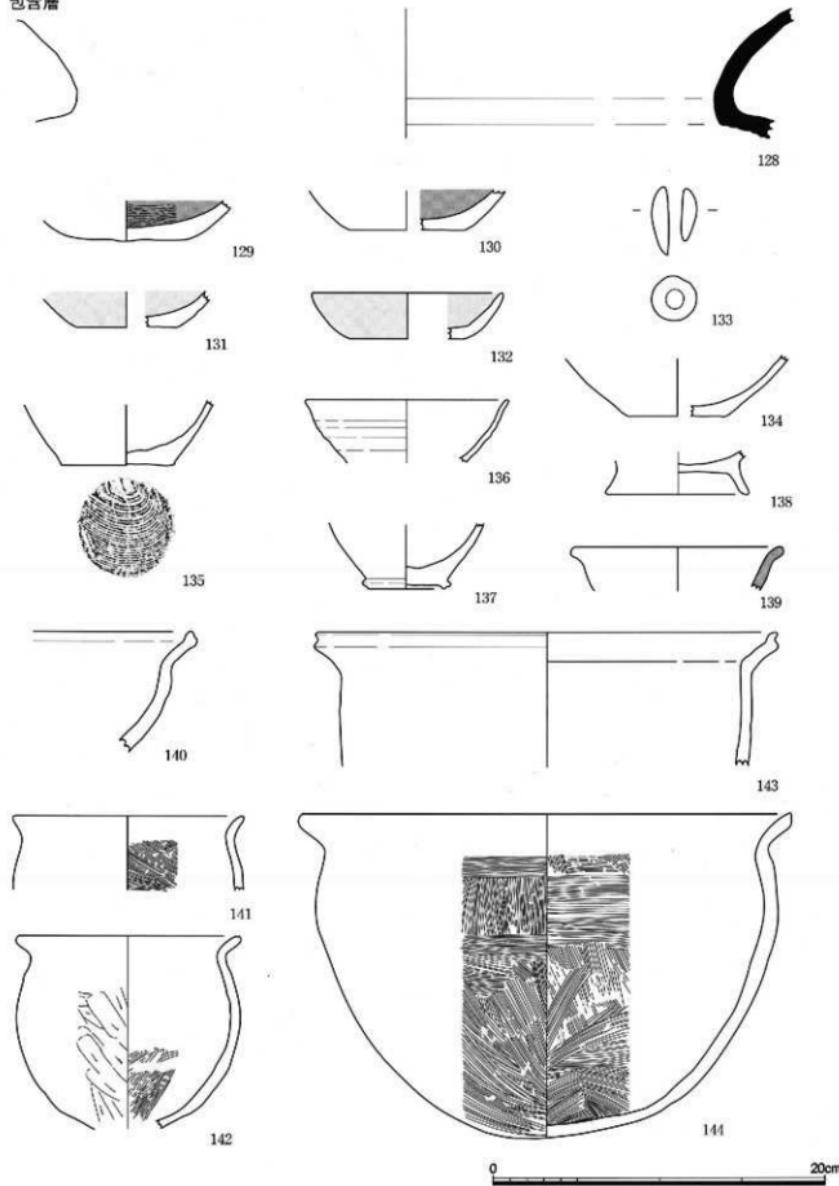
第24図 久戸Ⅱ遺跡2地区の遺物(3) (S=1:3)

包含層

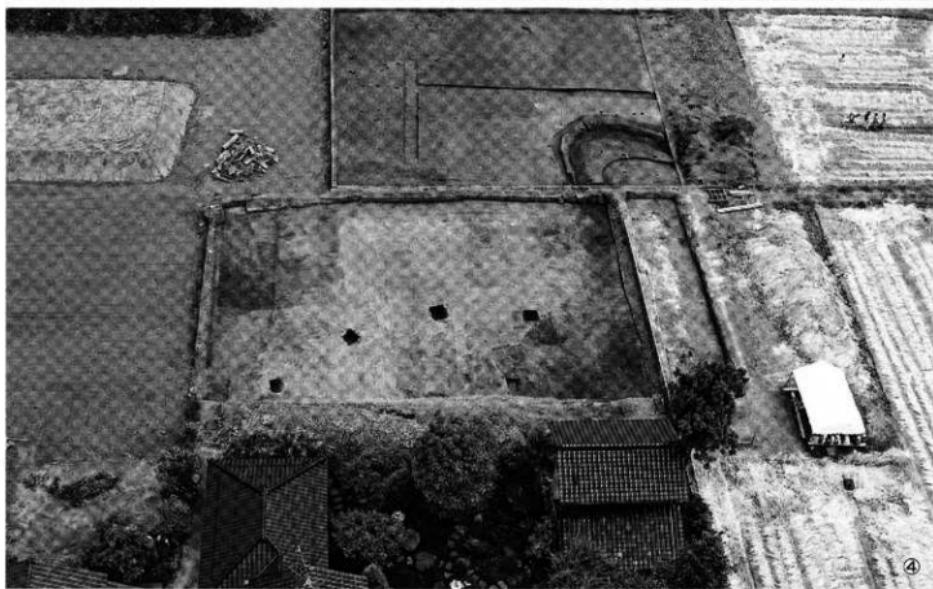
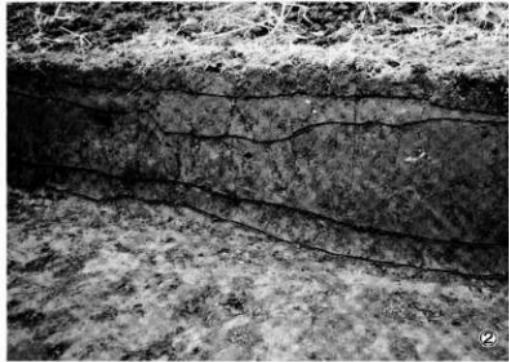


第25図 久戸Ⅱ遺跡2地区の遺物(4) (S=1:3)

包含層



第26図 久戸II遺跡2地区の遺物(5) (S=1:3)



図版1 神成遺跡1地区・2地区

- ①1地区全景(西から) ②1地区的基本層序 ③2地区的基本層序
④2地区全景(西から)



①

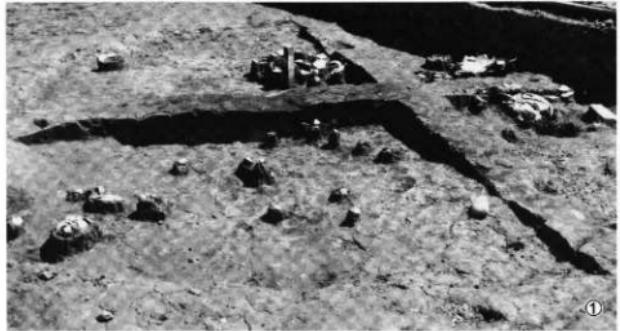


②

図版2 神成遺跡3地区

①遠景(北から)

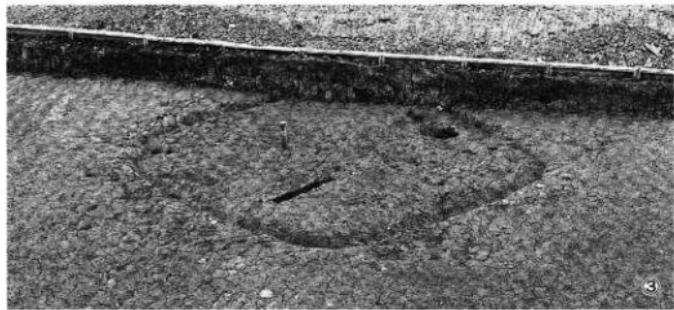
②調査区全景



①



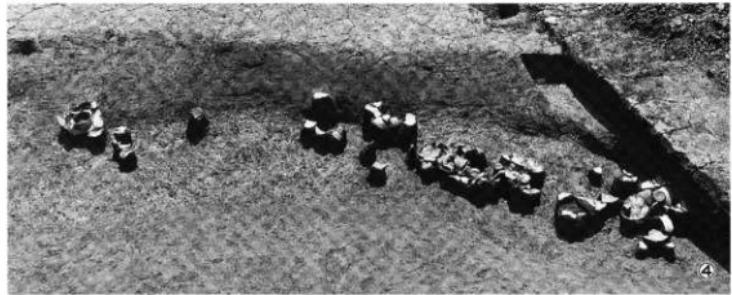
②



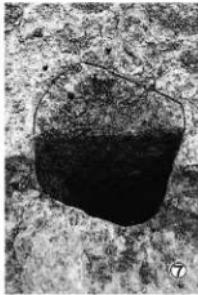
③



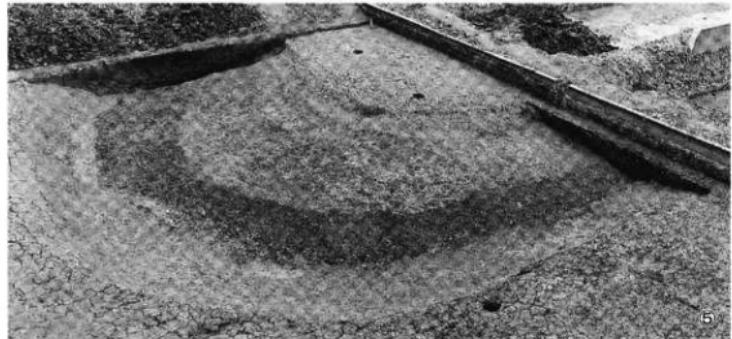
④



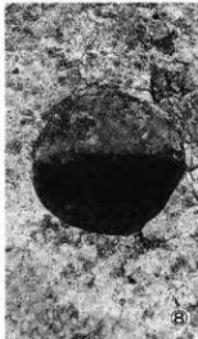
⑤



⑥



⑦



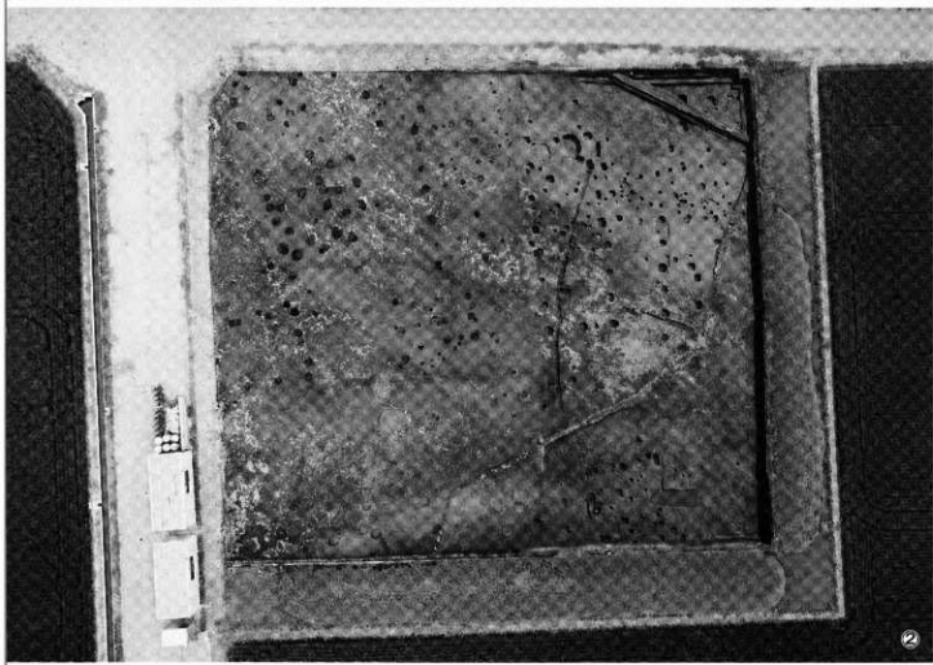
⑧

図版3 神成遺跡2地区の遺構

- ①SI01土層 ②SI01土器出土状況 ③SI01完掘状況
④SD01土器出土状況 ⑤SD01完掘状況 ⑥P1 ⑦P16 ⑧P36



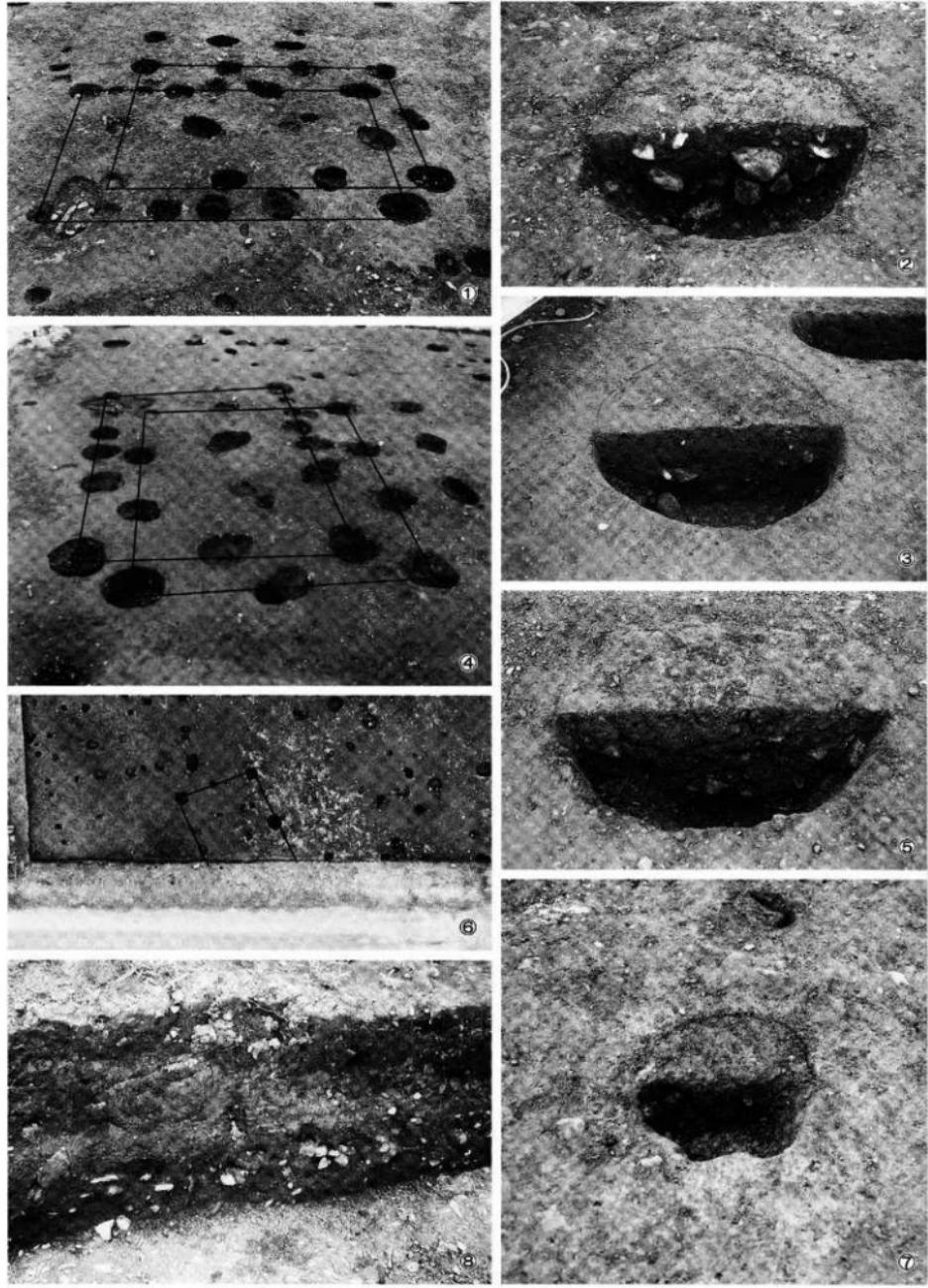
①



②

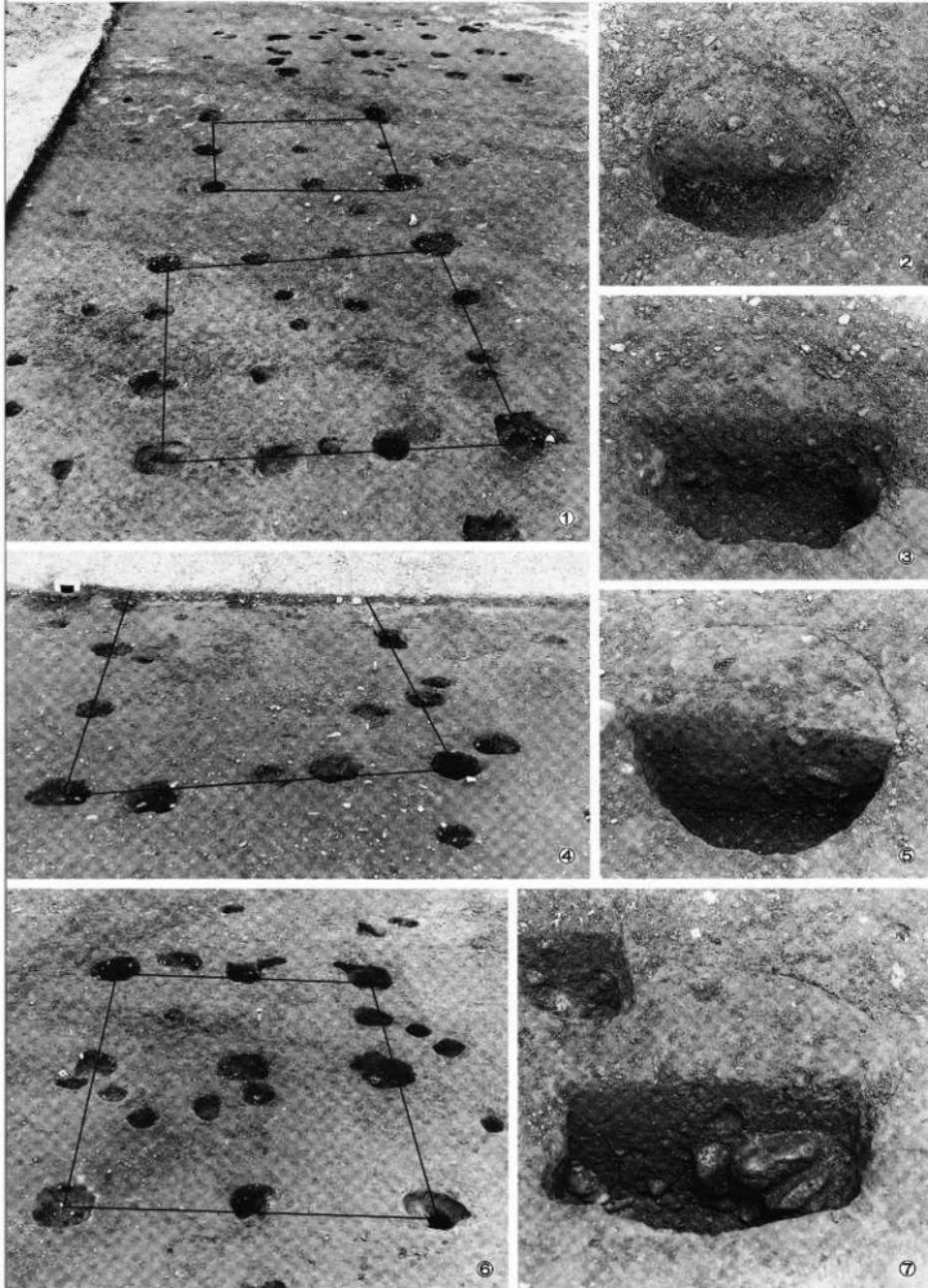
図版4 久戸II遺跡2地区

①遠景(北から) ②調査区全景



図版5 久戸II遺跡2地区の遺構(1)

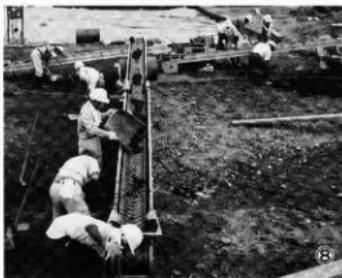
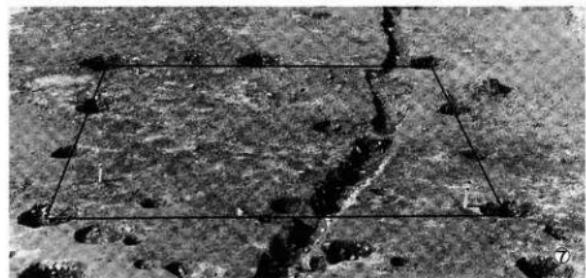
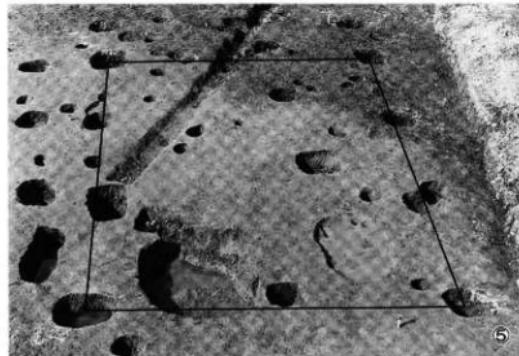
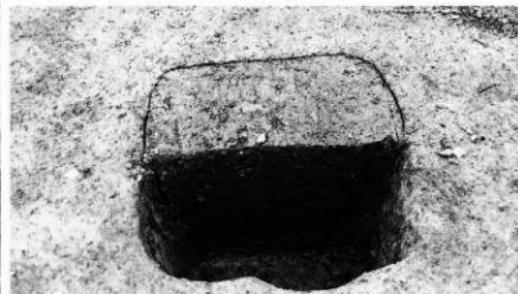
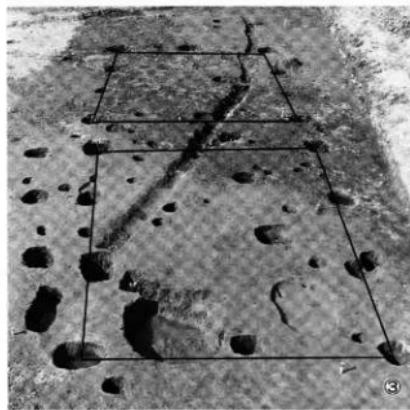
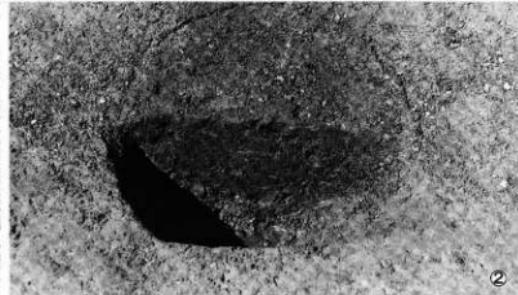
- | | | | |
|---------------|-------------|-----------|---------------|
| ①SB01,02(東から) | ②SB01-P1 | ③SB01-P10 | ④SB01,02(北から) |
| ⑤SB02-P2 | ⑥SB03(真上から) | ⑦SB03-P3 | ⑧基本層序 |



図版6 久戸II遺跡2地区の遺構(2)

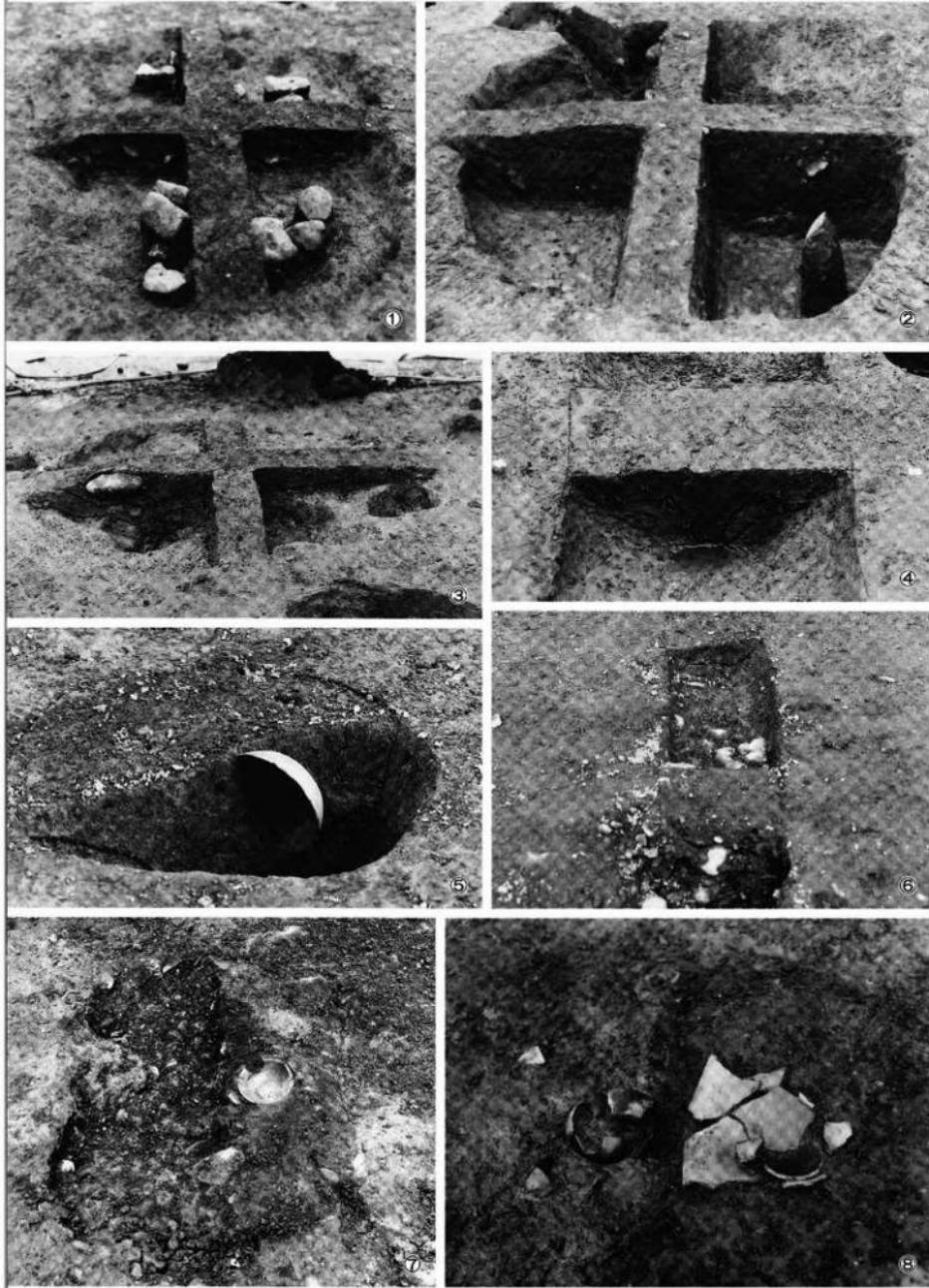
①SB04,05(南から) ②SB04-P11
 ⑤SB06-P1 ⑥SB07(東から)

③SB05-P4
 ⑦SB07-P4



図版7 久戸II遺跡2地区の遺構(3)

- | | | | |
|------------|----------|---------------|----------|
| ①SB08(北から) | ②SB08-P7 | ③SB11,12(南から) | ④SB11-P5 |
| ⑤SB11(南から) | ⑥SB12-P7 | ⑦SB12(南から) | ⑧作業状況 |

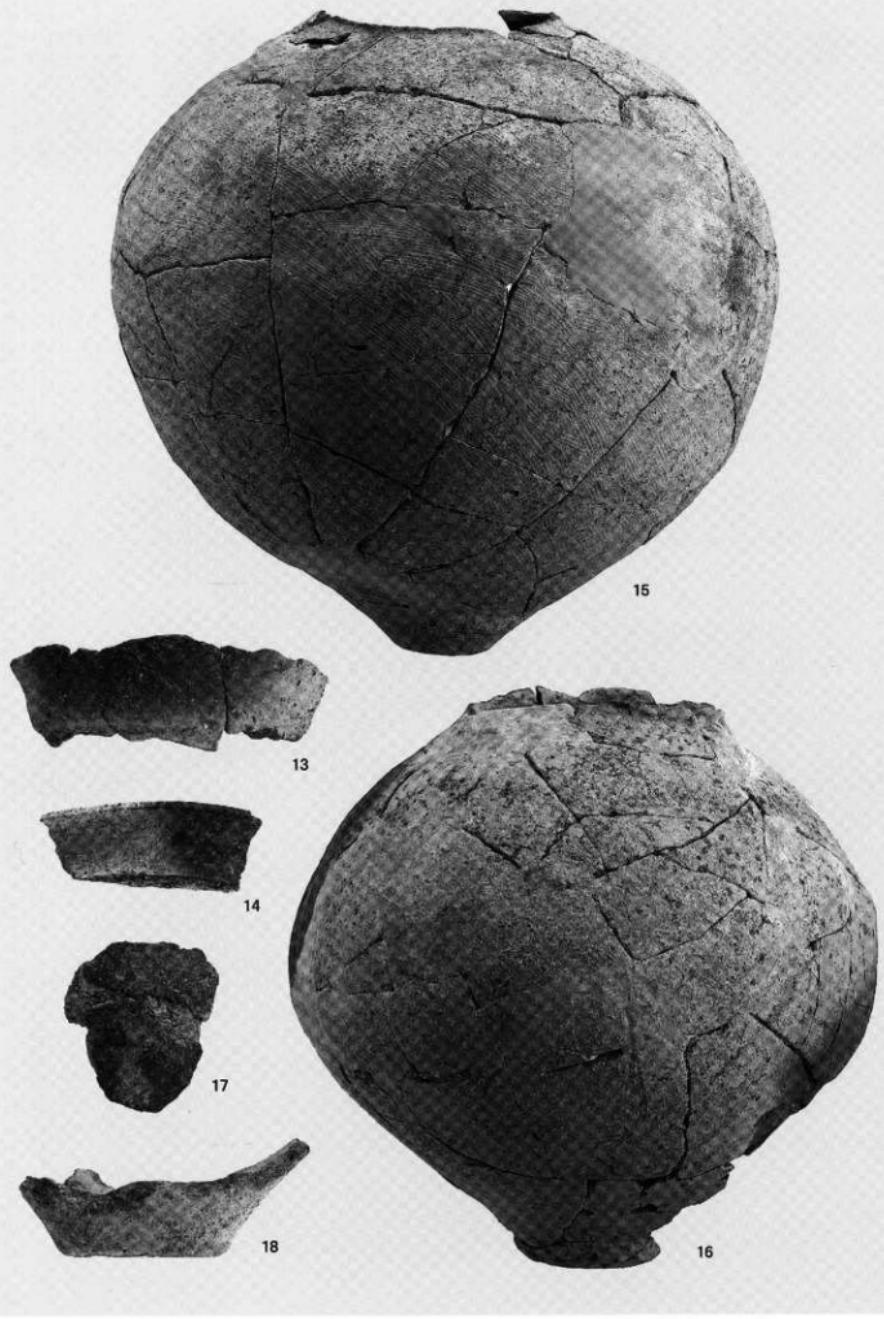


図版8 久戸II遺跡2地区の遺構(4)

- ①SK01土層(南から) ②SK02土層(南から) ③SK03土層(東から) ④SD03(南から)
- ⑤P153 須恵器出土状況 ⑥SD04(南から) ⑦須恵器出土状況 ⑧土師器出土状況



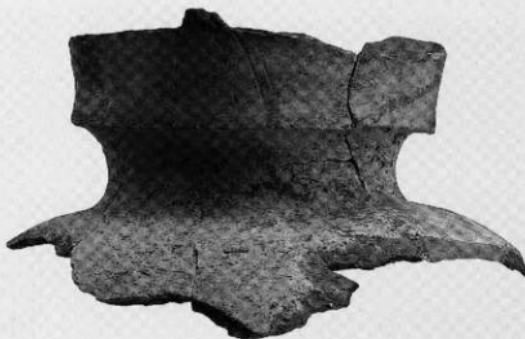
図版9 神成遺跡1地区(1~7)・3地区の遺物(8~12) (S=1:2)



図版10 神成遺跡3地区の遺物(2) (S=1:2)



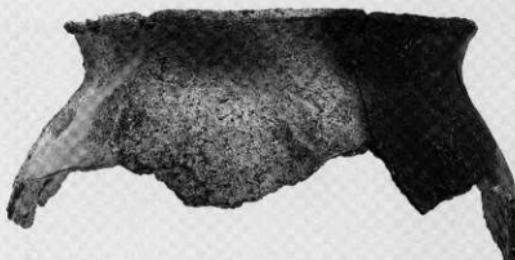
図版11 神成遺跡3地区の遺物(3) (S=1:2)



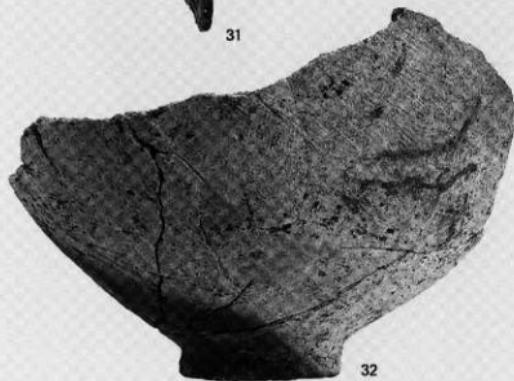
28



30

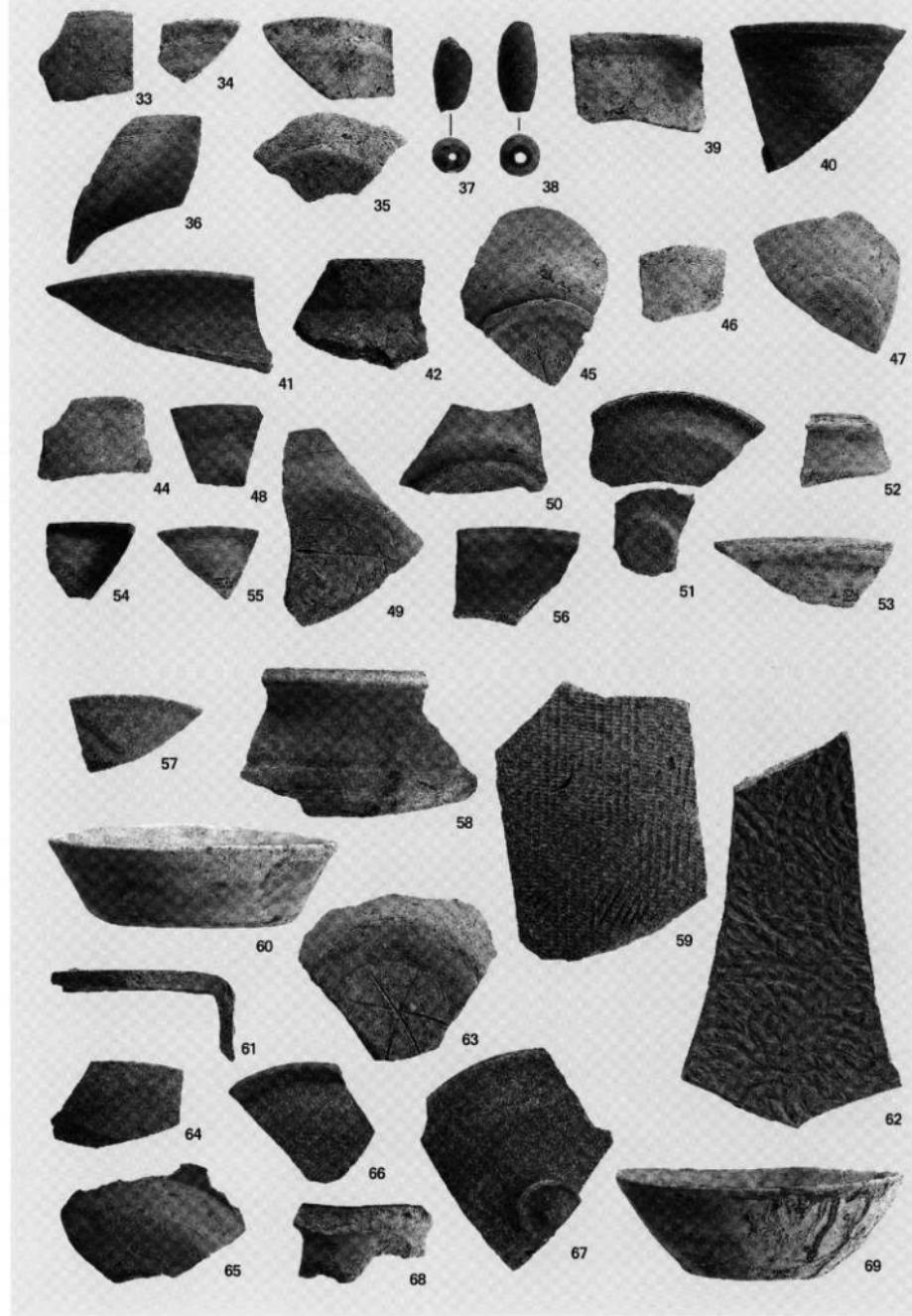


31

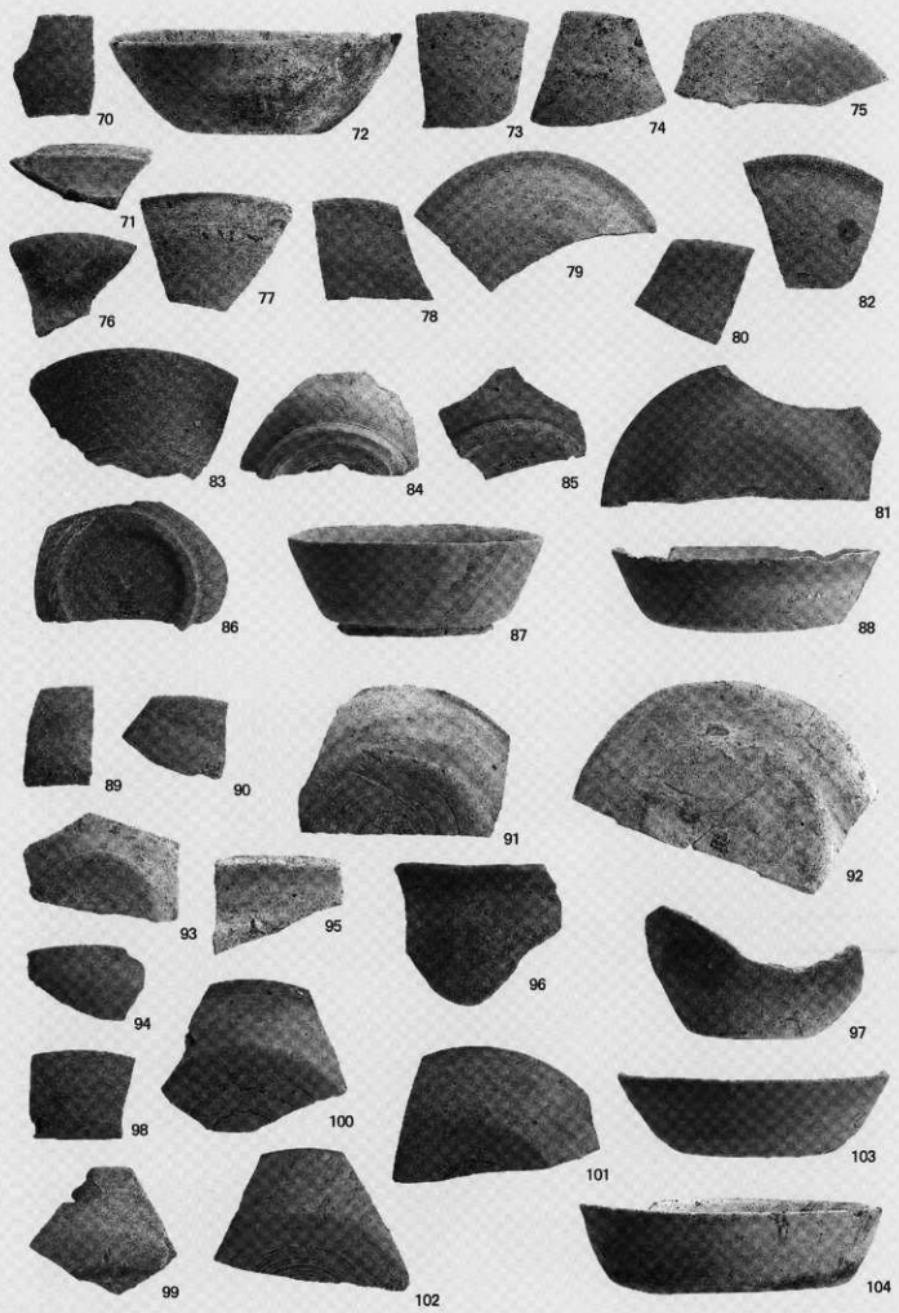


32

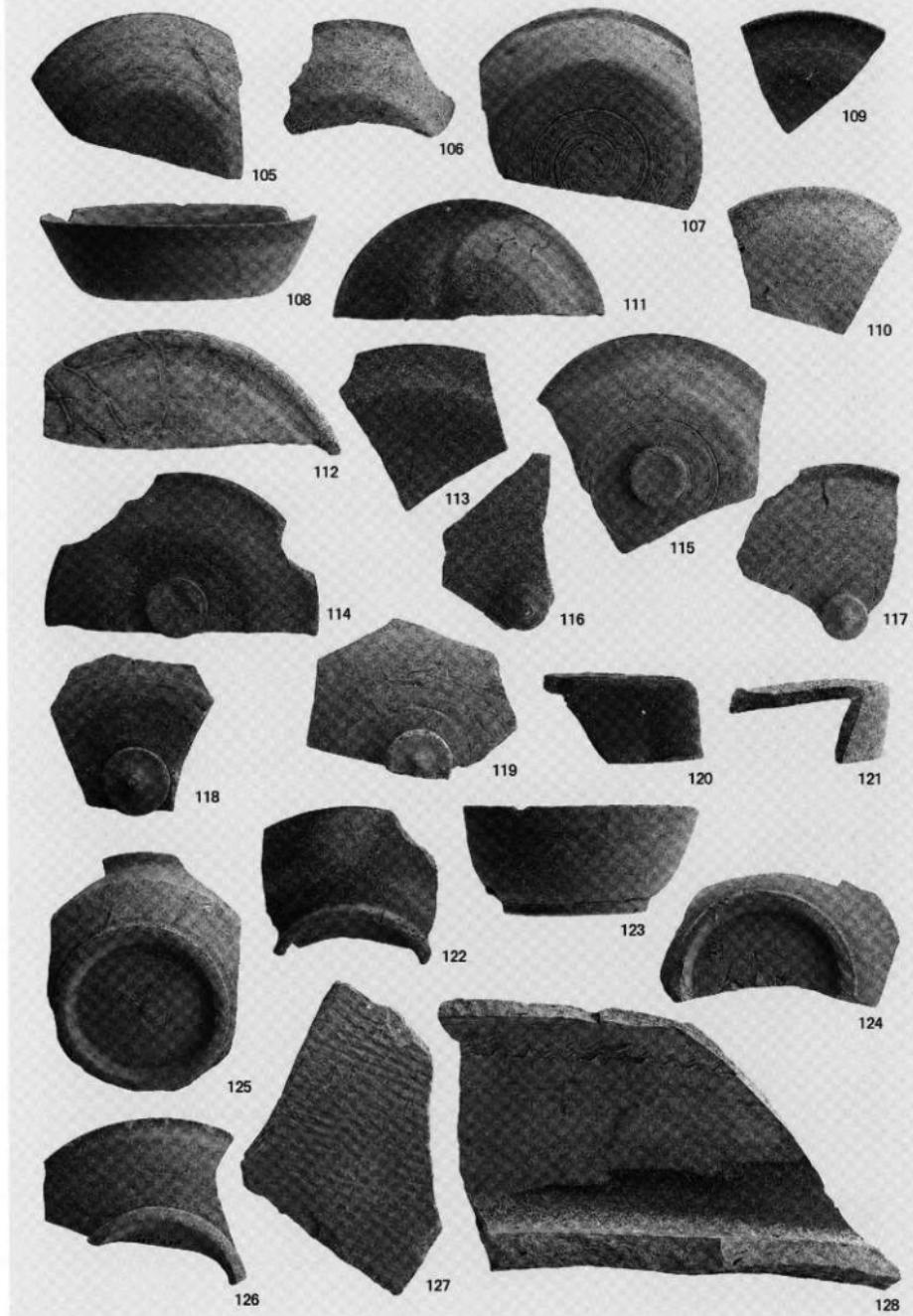
図版12 神成遺跡3地区の遺物(4) (S=1:2)



図版13 久戸II遺跡2地区の遺物(1) (S=1:2)



図版14 久戸Ⅱ遺跡2地区の遺物(2) (S=1:2)



図版15 久戸II遺跡2地区の遺物(3) (S=1:2)



図版16 久戸II遺跡2地区の遺物(4) (S=1:2)

報告書抄録

ふりがな	とやまけんふくみつまち かんなりいせきいち・ひさといせきに						
書名	富山県福光町 神成遺跡 I・久戸 II 遺跡 II						
副書名	県営は場整備事業(担い手育成型)北山田北部地区に伴う埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告(4)						
編著者名	片田亞紀・西村倫子						
編集機関	福光町教育委員会						
所在地	〒939-1692 富山県西砺波郡福光町荒木1550 TEL (0763) 52-1111						
発行年月日	西暦2004年3月10日						

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
神成遺跡	富山県 福光町神成	16421	421275	36度33分 31秒	136度54分 58秒	030512 ~030611	1,599	県営は場 整備事業
久戸 II 遺跡	富山県 福光町久戸	16421	421276	36度33分 40秒	136度54分 46秒	030612 ~030922	1,743	県営は場 整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
神成遺跡	集落	縄文、弥生 古墳、古代 中世	堅穴住居、河道 柱穴	土師器 須恵器、土師器、珠洲	
久戸 II 遺跡	集落	弥生、古墳 古代、中世	掘立柱建物、柱穴、 溝、土坑	縄文土器 須恵器、土師器、土錐 中世土師器、青磁	

県営は場整備事業(担い手育成型)北山田北部地区
に伴う埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告(4)

富山県福光町 神成遺跡 I・久戸 II 遺跡 II

平成16年3月

編集 福光町教育委員会

発行 福光町教育委員会

印刷 岩ナカダ印刷

